

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2015年5月28日(28.05.2015)



(10) 国際公開番号
WO 2015/075768 A1

- (51) 国際特許分類:
H04N 21/458 (2011.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2013/081133
- (22) 国際出願日: 2013年11月19日(19.11.2013)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (71) 出願人: 日立マクセル株式会社 (HITACHI MAXELL, LTD.) [JP/JP]; 〒5678567 大阪府茨木市丑寅一丁目1番88号 Osaka (JP).
- (72) 発明者: 鈴木 基之 (SUZUKI Motoyuki); 〒5678567 大阪府茨木市丑寅一丁目1番88号 日立マクセル株式会社内 Osaka (JP). 西島 英男 (NISHIJIMA Hideo); 〒5678567 大阪府茨木市丑寅一丁目1番88号 日立マクセル株式会社内

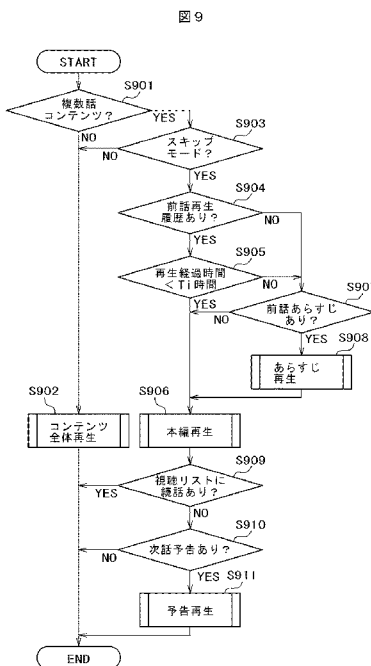
Osaka (JP). 橋本 康宣 (HASHIMOTO Yasunobu); 〒5678567 大阪府茨木市丑寅一丁目1番88号 日立マクセル株式会社内 Osaka (JP). 野村 具徳 (NOMURA Tomonori); 〒5678567 大阪府茨木市丑寅一丁目1番88号 日立マクセル株式会社内 Osaka (JP).

- (74) 代理人: 青稜特許業務法人 (SEIRYO I.P.C.); 〒1040032 東京都中央区八丁堀二丁目7番1号 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX,

[続葉有]

(54) Title: VIDEO PLAYBACK DEVICE, VIDEO DISTRIBUTION DEVICE AND VIDEO DISTRIBUTION METHOD

(54) 発明の名称: 映像再生装置、映像配信装置、及び映像配信方法



(57) Abstract: Provided are a video playback device, a video distribution device and a video distribution method with which, when content selected by a user is being viewed, the convenience to the user, when viewing a work comprising a plurality of contents, is improved by arranging that if the selected content is the second or a subsequent episode in a serial work, and if the elapsed time since the content of the previous episode was played back is less than a certain time, then sections of the content other than the main part are skipped during playback.

(57) 要約: ユーザが選択したコンテンツを視聴する場合に、選択されたコンテンツが前記シリーズ作品の2話目以降のコンテンツであり、かつ前話のコンテンツの再生からの経過時間が所定時間より短い場合には、前記コンテンツの前記本編以外の部分をスキップして再生することによって、複数のコンテンツからなる作品を視聴する場合に、ユーザの使い勝手がよい映像再生装置、映像配信装置、及び映像配信方法を提供する。

FIG. 9:
S901 Multi-episode content?
S902 Play back entire content
S903 Skip mode?
S904 Is the previous episode included in the playback history?
S905 Elapsed time since playback < time T1
S906 Play back main part
S907 Is there a summary of the previous episode?
S908 Play back summary
S909 Is the next episode in the viewing list?
S910 Is there a trailer for the next episode?
S911 Play back trailer

WO 2015/075768 A1



MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーロ
シア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッ

パ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称：映像再生装置、映像配信装置、及び映像配信方法
技術分野

[0001] 本発明は、複数話のコンテンツを視聴する映像再生装置、映像配信装置、及び映像配信方法に関する。

背景技術

[0002] 高速通信技術が普及するのに伴って、サーバ上にある音声や動画データを再生するコンテンツ配信サービスが急速に広がっている。このようなサービスでは、ユーザ（視聴者）は、視聴したいビデオが貸し出し中で見られないというレンタルビデオのようなことがない。このため、連続ドラマのような複数のコンテンツからなるシリーズ作品等の複数話のコンテンツを、ユーザが休日に一気に再生して見るという視聴形態が広がっている。また、ケーブルテレビにおいても、録画機能付きのセットトップボックスが導入され、ユーザが、同一番組の複数の週にわたる録画コンテンツ、即ち複数話のコンテンツを休日などに再生して連続視聴するというような視聴形態が広がっている。

このような複数のコンテンツからなるシリーズ作品を、ユーザが連続視聴する際の方法に関する技術として、例えば、特許文献1がある。この特許文献1には、「同一シリーズの録画番組を再生する際に、番組本編以外の放送部分の録画データを除外して再生する放送番組記録再生装置及び放送番組記録再生方法を提供する」ことが記載されている。

なお、本書でいうコンテンツは、テレビジョン放送や映画上映等に従せられる映像番組であり、音声や字幕スーパーを含む場合がある。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2008-193585号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 前記特許文献1は、様々な使用環境、使用状況においてユーザにとって使い勝手が十分ではなかった。例えば、連続ドラマ等のシリーズ作品は、複数話のコンテンツに分けられている。このような複数話のコンテンツを、複数回に分けて連続して視聴する場合について考慮されていない。このため、前回の視聴からの時間が長い場合に前回までのあらすじを確認できず、使い勝手が悪かった。例えば、10話からなるコンテンツのうち、第1話から第5話までを再生して連続視聴した後、第6話以降を次の週に再生して視聴するような場合には、第6話の本編を視聴する前に第5話のあらすじ部分を視聴できるようにした方が望ましい。なぜなら、ユーザは、連続視聴している場合には、まだ視聴したばかりのコンテンツの内容を覚えているため、前話のあらすじを再生して視聴してから本編を視聴することはしない。また、再生中の時間が無駄であり、早送りするにしてもユーザの手間がかかる。しかし、前に視聴してから所定の時間（例えば、1週間後）が経過からその続きのコンテンツを視聴する場合には、ユーザが前話（1週間前のコンテンツ）の内容を詳しく覚えていないことも考えられる。そこで、ユーザは、前話あらすじを再生して視聴後に本編を再生して視聴する。

同様に、コンテンツの本編の終わりに次話予告が付加されているコンテンツがある。ユーザが続けて連続話の次のコンテンツを視聴する場合には、この次話予告が不要である。そこで、この場合には、ユーザは、次話予告を再生して視聴する必要はないので再生しない。

また同様に、コンテンツの初めの主題歌（または、オープニング）や、コンテンツの終わりの副主題歌（または、エンディング）も、シリーズを通して同じものであれば、ユーザは再生して視聴したくない。また、できればCMも視聴したくないであろう。

上記のように、複数話のコンテンツからなるシリーズ作品を、ユーザが所定の時間内に連続して視聴する場合と、所定の時間以上経過後に視聴する場合では、本編以外の部分を再生する場合の要求が異なる。従来は、これら本

編以外の部分（主題歌、前話あらすじ、副主題歌、次話予告、CM等）を一律に再生していたため、ユーザの使い勝手が悪かった。

本発明の目的は、複数のコンテンツからなるシリーズ作品において、複数話のコンテンツを連続して或いは時間を空けて再生して視聴する場合にも、使い勝手の良い視聴環境が得られる、映像再生装置、映像配信装置、及び映像配信方法を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0005] 上記の目的を達成するためには、例えば、請求の範囲に記載の構成を採用すればよい。一例を挙げるならば、

予めコンテンツが記憶された映像配信装置から、ユーザによって選択されたコンテンツを受信して再生する映像再生装置において、前記選択されたコンテンツの構成情報を含むコンテンツ付随情報と、前記選択されたコンテンツを再生した時間情報を含むコンテンツ視聴履歴情報と、現在時刻情報を取得する情報取得部と、ユーザが視聴するコンテンツの選択を行う入力部と、前記受信したコンテンツを再生する出力部と、前記コンテンツ付随情報、前記コンテンツ視聴履歴情報及び前記現在時間情報、並びに、前記入力部から入力されたコンテンツに基づいて、前記コンテンツの本編以外の部分をスキップする制御部と、を備えることを特徴とする。

発明の効果

[0006] 本発明によれば、複数話のコンテンツからなる連続した作品を再生して視聴する場合に、使い勝手の良い視聴環境が得られる映像再生装置、映像配信装置、及び映像配信方法を実現することが可能となる。

図面の簡単な説明

[0007] [図1]本発明のネットワーク視聴システムの一実施例の構成を示すブロック図である。

[図2]本発明のコンテンツ配信サーバの一実施例の構成を示すブロック図である。

[図3]本発明の携帯端末装置の一実施例の構成を示すブロック図である。

[図4]本発明の視聴システムの動作シーケンスの一実施例を示す図である。

[図5]本発明の視聴システムにおける設定変更処理の一実施例を説明するためのフローチャートである。

[図6]本発明の視聴システムにおいて携帯端末装置の表示部に表示される連続視聴設定変更画面の一例を示す図である。

[図7]本発明の視聴システムにおけるコンテンツ視聴処理の動作シーケンスの一実施例を示す図である。

[図8A]本発明に使用するコンテンツの構成例を示す例を示す図である。

[図8B]複数話からなるコンテンツの構成例を示す例を示す図である。

[図8C]複数話からなるコンテンツの構成例を示す例を示す図である。

[図8D]複数話からなるコンテンツの構成例を示す例を示す図である。

[図8E]複数話からなるコンテンツの構成例を示す例を示す図である。

[図8F]複数話からなるコンテンツの構成例を示す例を示す図である。

[図9]本発明の視聴システムにおけるコンテンツ視聴処理のフローチャートの一例を示す図である。

[図10]本発明の視聴システムにおけるコンテンツ視聴処理のフローチャートの他の例を示す図である。

[図11]本発明の視聴システムにおけるコンテンツ視聴処理の動作シーケンスの他の一例を示す図である。

[図12]本発明の視聴システムにおけるコンテンツ配信処理のフローチャートの一例を示す図である。

[図13]本発明の視聴システムにおけるコンテンツ視聴処理のフローチャートの一例を示す図である。

[図14]本発明の視聴システムにおけるコンテンツ視聴処理のフローチャートの他の例を示す図である。

[図15]本発明の視聴システムにおけるコンテンツ配信処理のフローチャートの一例を示す図である。

発明を実施するための形態

[0008] 以下、本発明の実施形態の例を、図面を用いて説明する。

[0009] 図1は、本発明の実施形態に係るネットワーク視聴システムの一実施例の構成を示すブロック図である。本実施例は、映像再生装置として携帯端末装置1を用いた視聴システムであり、ルータ2、外部ネットワーク3、映像配信装置の1つであるコンテンツ配信サーバ4、基地局5から構成される。

携帯端末装置1は、無線LANでルータ2と接続されており、ルータ2から外部ネットワーク3を介してコンテンツ配信サーバ4とコンテンツ情報及びコンテンツの視聴履歴等のユーザ情報を送受信することができる。

さらに、携帯端末装置1はW-CDMA (Wideband Code Division Multiple Access) やGSM (登録商標) (Global System for Mobile communications) などの遠距離無線通信により基地局5から外部ネットワーク3を介してコンテンツ配信サーバ4とコンテンツ情報及びユーザ情報を送受信することができる。

[0010] 図2は、コンテンツ配信サーバの一実施例の構成を示すブロック図である。コンテンツ配信サーバは、例えば、図1のネットワーク視聴システムに使用される。図2の構成を図1のネットワーク視聴システムを用いて説明する。

図2において、コンテンツ配信サーバ4は、制御部41、メモリ42、計時部43、通信部44、ストレージ45を備え、それぞれはバス40で相互に接続されている。

制御部41は、例えば、CPU (Central Processing Unit)、MPU (マイクロプロセッサ) 等の演算処理装置で構成され、メモリ42に記憶したプログラムを実行することによって、各構成部を制御し、各種の処理を行っている。計時部43は、例えばRTC (Real Time Clock) 回路を用いて時間の計測を行い、時刻情報を出力する。通信部44は、外部ネットワーク3と接続するためのインターフェースであり、ストレージ45に蓄積されたコンテンツ情報、コンテンツ付随情報及びユーザ情報を外部ネットワーク3から基地局5或いはルータ2を介してネットワーク接続に対応したテレビ受信機、

携帯端末装置等の映像再生装置に配信する。また、通信部 4 4 を介してインターネット時刻サーバと接続することで計時部 4 3 の時刻を自動的に校正することが可能である。

[0011] ストレージ 4 5 は、コンテンツ情報を記憶するコンテンツ情報蓄積領域 4 5 a と配信したコンテンツの履歴情報等のユーザ情報を記憶するユーザ情報蓄積領域 4 5 b を有している。

コンテンツ情報は、配信可能なコンテンツの一覧情報、映像再生装置で再生されるために配信されるコンテンツ（コンテンツ本体情報）、及びコンテンツのタイトル、コンテンツの構成情報等のコンテンツ付随情報からなる。なお、タイトルには、映像再生装置に一覧表示したときに、ユーザが所望のコンテンツを選択し易いように表示する情報（例えば、主な出演者名、再生時間、監督名、話数（シリーズのコンテンツ数やその第何話目かを示す情報、等）を含む。また、例えば、タイトルは、映像再生装置に一覧表示するための情報または表示画像情報である。

ユーザ情報は、ユーザ認証のためのログイン情報（ユーザアカウント名及びパスワード）、視聴したコンテンツの履歴情報等である。

なお、コンテンツ情報は、例えば、ストレージ 4 5 に配信するためのコンテンツを記憶するときに、周知の判別手段を用いて抽出し、コンテンツ付随情報として、当該コンテンツと関連付けて記憶する。また、抽出する部分としては、上記の他に、ハイライトシーンや、無音区間、主役の登場シーン等、コンテンツ配信する業者が任意に設定可能である。

[0012] 図 3 は、本発明の映像再生装置の一実施例の構成を示すブロック図である。映像再生装置、例えば携帯端末装置であり、例えば、図 1 のネットワーク視聴システムに使用される。図 3 の構成を図 1 のネットワーク視聴システムを用いて説明する。

ここでは、映像再生装置としての携帯端末装置を、スマートフォンの場合を例にして説明する。携帯端末装置（スマートフォン）1 は、制御部 1 0 1 、メモリ 1 0 2 、ストレージ 1 0 3 、GPS（Global Positioning System）

受信部１０４、地磁気センサ１０５、加速度センサ１０６、ジャイロセンサ１０７、入出力インターフェース１０８、マイク１０９、音声処理部１１０、スピーカ１１１、外部音声出力部１１２、操作入力部１１３、表示部１１４、画像処理部１１５、撮像部１１６、基地局通信部１１７、無線通信部１１８、計時部１１９を備え、それぞれはバス１００に相互に接続されている。

[0013] 制御部１０１は、ＣＰＵ等、ＭＰＵ等の演算処理装置で構成され、メモリ１０２に記憶したプログラムを実行することによって、携帯端末装置１の各構成部を制御し、各種の処理を行っている。

メモリ１０２は、フラッシュメモリなどの不揮発性メモリであり、制御部１０１が使用する各種プログラムや携帯端末装置１のユーザの認証を行うユーザ情報１０２ａなどのデータを記憶している。また、携帯端末装置１は、メモリカードなどのストレージ１０３を備えており、音楽、ビデオ、写真のデータなどを保存することができる。

[0014] ＧＰＳ受信部１０４は、上空にあるＧＰＳ衛星からの信号を受信するものである。これにより、携帯端末装置１の現在位置を検出することができる。地磁気センサ１０５は、携帯端末装置１の向いている方向を検出するセンサである。加速度センサ１０６は、携帯端末装置１の加速度を検出するセンサであり、ジャイロセンサ１０７は、携帯端末装置１の角速度を検出するセンサである。これらのセンサにより、携帯端末装置１は、その傾き、及びその動きを詳細に検出することができる。

[0015] 入出力インターフェース１０８は、例えばＵＳＢなどであり、図示しない外部機器とデータの送受信を行うインターフェースである。

マイク１０９は、携帯端末装置１の外部の音声を入力するものであり、スピーカ１１１は、外部に対して音声を出力するものである。外部音声出力部１１２は、図示しないイヤフォンを接続してイヤフォンから音声を出力するものである。なお、入出力される音声は、音声処理部１１０にて音声処理される。

操作入力部 113 は、例えば静電容量式などのタッチパッド方式の入力手段であり、指やタッチペンなどによる接触操作（以降、タッチという）を操作入力として検出するものである。表示部 114 は、液晶パネルなどの表示面に映像や画像を表示するものであり、その表示面に操作入力部 113 を有する。

撮像部 116 は、カメラなどの撮像装置である。表示部 114 に表示される映像や、撮像部 116 から入力された映像は、画像処理部 115 にて処理される。

[0016] 基地局通信部 117 は、W-CDMA や GSM などの基地局 5 と遠距離の無線通信を行う通信インターフェースである。無線通信部 118 は、無線 LAN によりルータ 2 と無線通信を行う通信インターフェースである。これにより基地局 5 或いはルータ 2 を介して外部ネットワーク 3 に接続し、情報の送受信を行うこともできる。

計時部 119 は、例えば RTC 回路を用いて時間の計測を行い、時刻情報を出力するものであり、基地局通信部 117 或いは無線通信部 118 を介してインターネット時刻サーバと接続することで時刻を自動的に校正することが可能である。

メモリ 102 或いはストレージ 103 に記憶されるプログラム或いはデータは、外部ネットワーク 3 に接続し、図示しない外部サーバなどからダウンロードすることにより、随時、更新・追加することが可能である。また、これらのプログラム或いはデータは、入出力インターフェース 108 を介してパソコン等の外部機器と接続し、データやプログラム等を更新・追加することも可能である。なお、これらの更新・追加のために、メモリ 102 或いはストレージ 103 は、基地局通信部 117 或いは無線通信部 118 によって、基地局 5 或いはルータ 2 を介して外部ネットワーク 3 に接続する。

[0017] なお、携帯端末装置 1 を映像再生装置として使用する場合は、少なくとも、制御部 101、メモリ 102、ストレージ 103、入出力インターフェース 108、音声処理部 110、スピーカ 111、外部音声出力

部 1 1 2、操作入力部 1 1 3、表示部 1 1 4、画像処理部 1 1 5、基地局通信部 1 1 7 または無線通信部 1 1 8、及びバス 1 0 0 があればよい。

[0018] 以下、本発明の映像再生装置及び映像配信装置及び映像配信方法について、図 1 のネットワーク視聴システム、図 2 の映像配信装置、及び図 3 の携帯端末装置を使用して説明する。

[0019] 図 4 は、携帯端末装置 1 によりコンテンツ配信サーバ 4 に蓄積されたコンテンツを再生してユーザ 9 が視聴する場合の動作シーケンスの一実施例を示す図である。

図 4 の動作シーケンスでは、紙面の上から下に向かって時間の経過を示す。また、ユーザ 9 の操作、携帯端末装置 1 の動作、及び、コンテンツ配信サーバ 4 それぞれから出ている縦線上の処理 S 4 0 1 ~ S 4 0 6、S 4 1 0 及び S 4 2 0 は、ユーザ 9 の操作、携帯端末装置 1 の動作、及び、コンテンツ配信サーバ 4 の動作と、それぞれのシーケンスと、操作または動作内容を示す。なお、縦線上の間隔は、経過する時間の長さとは一致していない。さらに、横方向の矢印は、同時刻に他の機器（ユーザ 9、携帯端末装置 1、またはコンテンツ配信サーバ 4）に伝達されて表示しているが、多少の遅延がある。

なお、既に説明したように、携帯端末装置 1 での処理は、制御部 1 0 1 が制御し、コンテンツ配信サーバ 4 での処理は、制御部 4 1 が制御する。

以下、本書におけるユーザ 9 の操作は、すべて、携帯端末装置 1 の操作入力部 1 1 3 を操作（ユーザ操作）することによって実行されるものである。また、携帯端末装置 1 内の制御は、制御部 1 0 1 によって実行され、同様に、コンテンツ配信サーバ 4 内の制御は、制御部 4 1 によって実行される。

[0020] まず、ユーザ 9 は、携帯端末装置 1 の操作入力部 1 1 3 を操作して、表示部 1 1 4 に表示されたメニュー画面よりコンテンツ視聴アプリケーションを選択し、起動要求を行う（アプリ起動要求処理 S 4 0 1）。

上記ユーザ操作により、携帯端末装置 1 は、コンテンツ視聴アプリケーションを起動する（コンテンツ視聴アプリ起動処理 S 4 0 2）。

ユーザ操作によりビデオ視聴アプリケーションが選択されると、携帯端末装置 1 は、ビデオ視聴アプリを起動する。そして、基地局通信部 117 から基地局 5 を介して、或いは、無線通信部 118 からルータ 2 を介して、外部ネットワーク 3 に接続してコンテンツ配信サーバ 4 にアクセスを行い、ログイン画面情報を要求する。コンテンツ配信サーバ 4 は、ログイン画面情報の要求を受信すると、基地局 5 あるいはルータ 2 を介して要求元の携帯端末装置 1 にログイン画面情報を送信する。携帯端末装置 1 は、送信されたログイン画面情報を取得する（ログイン画面要求・取得処理 S403）。

携帯端末装置 1 は、取得したログイン画面を表示部 114 に表示する（ログイン画面表示処理 S404）。

[0021] ユーザ 9 は、携帯端末装置 1 に表示されたログイン画面に従って、操作入力部 113 を操作してログイン情報を入力する。ユーザ操作によって、携帯端末装置 1 にログイン情報が入力されると、携帯端末装置 1 は、入力されたアカウント名及びパスワードのログイン情報をコンテンツ配信サーバ 4 に送信する（ログイン情報入力・送信処理 S405）。

コンテンツ配信サーバ 4 は、ストレージ 45 に蓄積されたユーザ情報 45b を参照し、送信されたログイン情報が正規の登録ユーザであればアカウント認証してアカウント認証した旨を携帯端末装置 1 に送信し、ユーザアカウント認証する。また、送信されたログイン情報が正規の登録ユーザでなければアカウント認証せず、アカウント認証しなかった旨を携帯端末装置 1 に送信する（ユーザアカウント認証処理 S406）。

[0022] 携帯端末装置 1 は、コンテンツ配信サーバ 4 からユーザアカウント認証を受けると、ユーザがログアウト処理を選択するまで繰り返し処理 S410（S411～S413）を行う。

[0023] 繰り返し処理 S410 では、携帯端末装置 1 は、まず携帯端末装置 1 で実行する処理の選択画面を表示部 114 に表示する（処理選択画面表示処理 S411）。ユーザから選択結果が入力されると（処理選択入力処理 S412）、携帯端末装置 1 は、選択結果に応じた処理 S413（分岐処理 413

a、分岐処理 4 1 3 b、中断処理 4 1 3 c) を実行する。

携帯端末装置 1 は、ユーザ 9 が設定変更を選択した場合には、分岐処理として設定変更処理 S 4 1 3 a を実行し、ユーザ 9 がコンテンツ視聴を選択した場合には、分岐処理としてコンテンツ視聴処理 S 4 1 3 b を実行する。また、ユーザ 9 がログアウトを選択した場合には、携帯端末装置 1 は、中断処理としてログアウト処理 S 4 1 3 c を実行し、繰り返し処理 S 4 1 3 を抜けて、コンテンツ視聴アプリケーションを終了する（アプリ終了処理 S 4 2 0）。

[0024] 図 5 及び図 6 を用いて設定変更処理 S 4 1 3 a の動作について説明する。

[0025] 図 5 は、設定変更処理 S 4 1 3 a の動作手順の一実施例を説明するためのフローチャートである。ユーザ 9 が処理選択入力 S 4 1 2 で設定変更を選択すると、設定変更処理 S 4 1 3 a の処理が開始される。

図 5 において、携帯端末装置 1 は、表示部 1 1 4 にまず設定変更画面を表示する（設定画面表示処理 S 5 0 1）。次に、ユーザ 9 が操作入力部 1 1 3 により設定変更する項目を選択すると（設定変更選択処理 S 5 0 2）、分岐処理 S 5 0 3 では選択結果に応じて分岐処理を行う。

[0026] 携帯端末装置 1 は、ユーザ操作によって「アカウント設定変更」が選択された場合には、アカウント設定変更画面を表示する（アカウント設定変更画面表示処理 S 5 0 4）。

ユーザ 9 が操作入力部 1 1 3 を操作して、アカウント設定の設定項目を入力することによって、携帯端末装置 1 は、入力された設定項目の内容を認識（設定変更入力処理 S 5 0 5）し、携帯端末装置 1 は、アカウント設定変更を行う（アカウント設定変更処理 S 5 0 6）。

[0027] 携帯端末装置 1 は、ユーザ操作によって「連続視聴設定変更」が選択された場合には、連続視聴設定変更画面を表示する（連続視聴設定変更画面表示処理 S 5 0 7）。

ユーザ 9 が操作入力部 1 1 3 を操作して、連続視聴設定の設定項目を入力（設定変更入力処理 S 5 0 8）することによって、携帯端末装置 1 は、入力

された設定項目の内容を認識し、携帯端末装置 1 は、連続視聴設定の設定変更を行う（連続視聴設定変更処理 S 5 0 9）。

[0028] 即ち、携帯端末装置 1 は、コンテンツ配信サーバ 4 と相互にアクセスして、ユーザ操作により設定された連続視聴設定に設定変更する。

[0029] なお、図 5 の実施例では、アカウント設定及び連続視聴設定を変更する場合について記載しているが、これに限定することなく、図 5 の破線で表したように、他の設定項目を選択して変更するように分岐してもよい。また、これらの設定は、設定変更時（アカウント設定変更処理 S 5 0 6）に、携帯端末装置 1 のメモリ 1 0 2 のユーザ情報 1 0 2 a に記憶するようにしてもよく、コンテンツ配信サーバ 4 のユーザ情報蓄積領域 4 5 b に記憶するようにしてもよく、或いは両方に記憶するようにしてもよい。

[0030] 図 6 は、携帯端末装置 1 の表示部 1 1 4 に表示される連続視聴設定変更画面の一例を示す図である。

ユーザ 9 が複数コンテンツで構成されるコンテンツを視聴する際には、例えば、スキップモードと、連続視聴と判定する基準として前話を視聴してからの経過時間を設定する。ユーザ 9 は、操作入力部 1 1 3 を操作する。即ち、ユーザ 9 は、表示部 1 1 4 に表示された連続視聴設定変更画面のスキップモードのオン／オフボタン 6 - a、経過時間設定欄 6 - b、設定ボタン 6 - c、及び設定終了ボタン 6 - d をタッチして連続視聴の設定を行う。

ユーザ操作によってオン／オフボタン 6 - a がタッチされると、携帯端末装置 1 は、本編の前後に設けられた前話のあらすじ部分や次話の予告部分をスキップするように設定変更する。また、経過時間設定欄 6 - b に数値（例えば、単位が時間）が入力されると、携帯端末装置 1 は、連続視聴と判定する基準として前話を視聴してからの経過時間を、入力された数値の時間に設定変更する。ユーザ操作によって、スキップモードのオン／オフボタンの選択、或いは連続視聴判定時間を入力された後、設定ボタン 6 - c が押されたことにより、携帯端末装置 1 は入力された項目内容を確定し、ユーザ操作によって終了ボタン 6 - d が押されたことにより携帯端末装置 1 は連続視聴設

定変更入力を終了する。

なお、図5及び図6において、設定項目のデフォルトを予め用意し、表示部114には、最初にそのデフォルト値が表示されるようにしてもよい。デフォルト値は、例えば図6において、スキップモードがオンであり、連続視聴判定時間が24時間である。また、設定変更後には、映像再生装置の電源オフまでは、設定後の値が表示される。

[0031] 次にコンテンツ視聴処理S413bについて説明する。図7は、コンテンツ視聴処理S413bの動作シーケンスの一実施例を示す図である。図7の動作シーケンスでも、図4と同様に、紙面の上から下に向かって時間の経過を示す。また、ユーザ9の操作、携帯端末装置1の動作、及び、コンテンツ配信サーバ4それぞれから出ている縦線上の処理S700～S714は、ユーザ9の操作、携帯端末装置1の動作、及び、コンテンツ配信サーバ4それぞれの動作時間と動作内容を示す。なお、縦線上の間隔は、経過する時間の長さとは一致していない。さらに、横方向の矢印は、同時刻に他の機器（ユーザ、携帯端末装置1、またはコンテンツ配信サーバ4）に伝達されているように見えるが、多少の遅延がある。

なお、既に説明したように、携帯端末装置1での処理は、制御部101が制御し、コンテンツ配信サーバ4での処理は、制御部41が制御する。

[0032] ユーザ操作によって、処理選択入力処理S412でコンテンツ視聴が選択されると、コンテンツ視聴処理S413bの処理が開始される。

図7において、まず、携帯端末装置1は、コンテンツ配信サーバ4に配信しているコンテンツの一覧情報及びユーザのコンテンツ視聴履歴情報を要求する（コンテンツ一覧・視聴履歴要求処理S700）。

コンテンツ配信サーバ4は、配信しているコンテンツのタイトル名等を含むコンテンツの一覧情報及びユーザの視聴したコンテンツ名、視聴した日時等のコンテンツ視聴履歴情報を携帯端末装置1に送信する（コンテンツ一覧・視聴履歴送信処理S701）。

携帯端末装置1は、受信したコンテンツの一覧及び視聴したコンテンツの

一覧を表示部 114 に表示する（コンテンツ一覧・視聴履歴表示処理 S702）。

ユーザ 9 は、操作入力部 113 を操作して、表示されたコンテンツ一覧から視聴するコンテンツを N 個選択する（コンテンツ選択処理 S703）。ここでは、ユーザ 9 は、連続ドラマの中の 1 話から N 話までのコンテンツを選択する。

なお、選択するコンテンツの数 N は 1 つでもよく、連続ドラマのような複数のコンテンツで構成される作品では複数のコンテンツを選択してもよい（N は、自然数）。

[0033] 次に、携帯端末装置 1 は、選択したコンテンツをもとに視聴するコンテンツのリストを作成し（視聴コンテンツリスト処理 S704）、選択した N 個のコンテンツを第 1 話から第 N 話まで再生する繰り返し処理 S710（S711～S713）を実行する。

[0034] 繰り返し処理 S710 では、携帯端末装置 1 は、まず現在時刻情報を取得する。即ち、携帯端末装置 1 は、現在時刻情報をコンテンツ配信サーバ 4 に要求する。コンテンツ配信サーバ 4 は、現在時刻情報の要求に応じて現在時刻情報を計時部 43 から取得し、取得した現在時刻情報を携帯端末装置 1 に送信する（現在時刻情報取得処理 S711）。

なお、現在時刻情報を取得する方法としては、計時部 119 から取得してもよく、コンテンツ配信サーバ 4 から取得してもよく、インターネット時刻サーバから取得してもよい。

[0035] 次にコンテンツリストの M 番目（M は自然数で、 $1 \leq M \leq N$ である）のコンテンツの構成情報等を含むコンテンツ付随情報を取得する（M 番目コンテンツ付随情報取得処理 S712）。即ち、携帯端末装置 1 は、コンテンツリストの構成情報等を含む M 番目のコンテンツ付随情報をコンテンツ配信サーバ 4 に要求する。コンテンツ配信サーバ 4 は、要求に応じて M 番目のコンテンツ付随情報をストレージ 45 から取得し、取得した M 番目のコンテンツ付随情報を携帯端末装置 1 に送信する。

[0036] 携帯端末装置 1 は、コンテンツ視聴履歴情報、現在時間情報、及びコンテンツ構成情報を含むコンテンツ付随情報に基づいて当該視聴対象の M 番目のコンテンツのコンテンツ本体情報を順次取得して、M 番目のコンテンツの再生処理を実行する（M 番目のコンテンツ再生処理 S 7 1 3）。

[0037] 次に、M 番目のコンテンツの再生処理後、コンテンツ配信サーバ 4 は、ユーザが視聴したコンテンツ名、視聴した日時の情報等のコンテンツ視聴履歴情報を更新する（履歴情報更新処理 S 7 1 4）。

以上の処理を視聴コンテンツリストの N 個のコンテンツの再生が終了するまで繰り返すことで、コンテンツ再生処理を行う。即ち、M を 1 から N まで順番に 1 ずつ増加させて、処理 S 7 1 1 ～処理 S 7 1 4 を繰り返す。

なお、上記の例ではコンテンツリストの M 番目のコンテンツ付随情報を M 番目コンテンツ付随情報取得処理 S 7 1 2 において取得するようにしたが、これに限らずコンテンツ一覧・視聴履歴送信処理 S 7 0 1 のコンテンツ一覧の情報取得時に各コンテンツの付随情報も取得するようにしてもよい。

[0038] 図 8 A ～図 8 E、及び図 9 を用いてコンテンツ視聴処理 S 7 1 3 の動作を説明する。図 8 A ～図 8 E は、1 話のコンテンツの構成例を示す図である。図 8 A に示すコンテンツ C a の構成は、前話あらすじ部分 C 1、主題歌（オープニング）部分 C 2、本編部分 C 3、副主題歌（エンディング）部分 C 4、及び次話予告部分 C 5 の 5 つのチャプターで構成される例である。図 8 B に示すコンテンツ C b は、図 8 A に示すコンテンツ C a に対して次話予告部分 C 5 を有しない 4 つのチャプターで構成される例である。図 8 C に示すコンテンツ C c は、図 8 A に示すコンテンツ C a に対して前話あらすじ部分 C 1 を有しない 4 つのチャプターで構成される例である。また、次話予告部分 C 5 と副主題歌部分 C 4 の順番が逆転している例である。図 8 D に示すコンテンツ C d は、図 8 A に示すコンテンツ C a に対して前話あらすじ部分 C 1 及び次話予告部分 C 5 を有しない 3 つのチャプターで構成される例である。

図 8 E は、図 8 A のコンテンツ C a にヘッダ C 0 が付加されていることを示す図である。コンテンツ C a に限らず、図 8 B ～図 8 D 及び後述の図 8 F

においても、コンテンツC b～C dには、その前にヘッドC 0が付加されている。ヘッダC 0には、そのコンテンツを識別するI D（識別子）と共に、コンテンツ付随情報が含まれている。このI Dとコンテンツ付随情報は、コンテンツ情報がストレージ4 5のコンテンツ情報蓄積領域4 5 aに記憶されるときに、同時にコンテンツ情報蓄積領域4 5 aに記憶される。

[0039] 図9は、M番目のコンテンツ視聴処理S 7 1 3の動作フローチャートの一例を示す図である。

図9において、分岐処理S 9 0 1では、取得したコンテンツ付随情報から再生対象のコンテンツが複数話からなるコンテンツか否か、かつ複数話からなるコンテンツの場合には第1話目であるか否かを判断する（複数話コンテンツ有無判定処理S 9 0 1）。

再生対象のコンテンツが複数話からなるコンテンツではない（シリーズではない、1話だけのコンテンツである）場合及び第1話目である場合（N o）には、コンテンツ全体を再生する処理を行う（コンテンツ全体再生処理S 9 0 2）。再生対象のコンテンツが複数話からなるコンテンツの場合でかつ第2話以降である場合（Y e s）には、分岐処理S 9 0 3において前話あらすじ部分或いは次話予告部分をスキップするモードが設定されているかを判断する（スキップモード判定処理S 9 0 3）。

スキップするモードが設定されていない場合（N o）には、本編部分以外のあらすじ部分及び／或いは予告部分も含めたコンテンツ全体を再生する処理を行う（コンテンツ全体再生処理S 9 0 2）。スキップするモードが設定されている場合（Y e s）には、再生対象のコンテンツの前話を再生した履歴があるか否かを判断する（前話再生履歴有無判定処理S 9 0 4）。

[0040] 分岐処理S 9 0 4の判断から、前話を再生した履歴がある場合（Y e s）には、コンテンツ再生履歴の情報と現在時刻情報取得処理S 7 1 1で取得した現在時刻情報に基づいて前話を再生してから現在の時間までの経過時間が所定の時間T i 時間より短いかな否かを判断する（再生経過時間判定処理S 9 0 5）。

経過時間が所定の時間 T_i 時間より短い場合 (Yes) には、本編を再生する処理 (本編再生処理 S 9 0 6) を行う。分岐処理 S 9 0 4 において再生対象のコンテンツの前話を再生した履歴がない場合 (No)、及び分岐処理 S 9 0 5 において経過時間が所定の時間 T_i 時間より長い場合 (No) には、M 番目コンテンツ付随情報取得処理 S 7 1 2 で取得したコンテンツの構成情報によりコンテンツに前話のあらすじ部分があるか否かを判断する (前話あらすじ有無判定処理 S 9 0 7)。

前話あらすじ部分がない場合 (No) には、本編部分を再生する処理 (本編再生処理 S 9 0 6) を行う。前話あらすじ部分がある場合 (Yes) には、あらすじ部分を視聴する処理 (あらすじ再生処理 S 9 0 8) を行った後、本編部分を再生する処理 (本編再生処理 S 9 0 6) を行う。

[0041] 本編再生処理 S 9 0 6 を行った後、現在の再生聴対象のコンテンツの続話が視聴コンテンツリスト処理 S 7 0 4 において作成した視聴コンテンツリストの中にあるか否かを判断する (続話有無判定処理 S 9 0 9)。

視聴コンテンツリストに続話がある場合 (Yes) には、再生処理を終了する。リストに続話がない場合 (No) には、M 番目コンテンツ付随情報取得処理 S 7 1 2 で取得したコンテンツの構成情報によりコンテンツに次話の予告部分があるか否かを判断する (次話予告有無判定処理 S 9 1 0)。予告部分がない場合 (No) には、再生処理を終了する。予告部分がある場合には、予告部分を再生する処理 (予告再生処理 S 9 1 1) を行い、再生処理を終了する。

[0042] 上記図 9 の処理により、図 8 A 或いは図 8 B のコンテンツ C a、C b のように、あらすじ部分を有するコンテンツにおいて、ユーザは、前話を視聴してから時間が短い場合には、前話のあらすじ部分をスキップして続話の本編を視聴することが可能となる。また、前話を視聴していない場合或いは前話を視聴してから経過時間が長い場合には、ユーザは前話のあらすじ部分を視聴してから本編を視聴することが可能となる。

また、図 8 A 或いは図 8 C のコンテンツ C a、C c のように、予告部分を

有するコンテンツにおいて、次話を続けて視聴する場合には、次話の予告部分をスキップして視聴することが可能となる。また、次話を続けて視聴しない場合には、次話の予告部分を視聴することが可能となる。

[0043] 図10は、M番目のコンテンツ再生処理S713の動作フローチャートの他の例を示す図である。図10において、図9と同じ処理部分には同じ番号を付し、説明を省略する。本実施例では、前話あらすじ部分がなく、次話予告部分のみを有するコンテンツにおいても、ユーザが前話のあらすじを確認可能とするものである。

[0044] 図10の分岐処理S904において、視聴対象のコンテンツの前話を視聴した履歴がない場合（No）、及び分岐処理S905において経過時間が所定の時間Ti時間より長い場合（No）には、M番目コンテンツ付随情報取得処理S712で取得したコンテンツ付随情報のコンテンツの構成情報により、コンテンツに前話のあらすじ部分があるか否かを判断する（前話あらすじ有無判定処理S907）。

前話あらすじ部分がある場合（Yes）には、前話あらすじ部分を再生する処理（あらすじ再生処理S908）を行った後、本編再生処理S906を行う。前話あらすじ部分がない場合（No）には、コンテンツに次話の予告部分があるか否かを判断する（次話予告有無判定処理S920）。

次話予告部分がない場合（No）には、本編を再生する処理（本編再生処理S906）を行う。予告部分がある場合（Yes）には、再生するコンテンツが第3話以降か否かを判断する（第3話以降判定処理S921）。第3話以降ではない場合（No）には、本編を再生する処理（本編再生処理S906）を行う。第3話以降の場合（Yes）には、再生するコンテンツの2話前の予告部分を前話のあらすじ部分として再生する処理（2話前予告再生処理S922）を行った後、本編再生処理S906を行う。

[0045] 本編再生処理S906を行った後、現在の再生対象の続話が視聴コンテンツリスト処理S704において作成した視聴コンテンツリストの中にあるか否かを判断する（視聴リスト続話有無判定処理S909）。視聴コンテンツ

リストに続話がある場合（Ｙｅｓ）には再生処理を終了する。リストに続話がない場合（Ｎｏ）には、Ｍ番目コンテンツ付随情報取得処理Ｓ７１２で取得したコンテンツの構成情報によりコンテンツに次話の予告部分があるか否かを判断する（次話予告有無判定処理Ｓ９１０）。予告部分がない場合（Ｎｏ）には再生処理を終了する。予告部分がある場合には、予告部分を再生する処理（予告再生処理Ｓ９１１）を行い、再生処理を終了する。

[0046] 上記図１０の処理により、前話を再生していない場合或いは前話を再生してからの経過時間が長い場合に、図８Ｃのように次話の予告部分はあるが、前話のあらすじ部分がないコンテンツにおいても、第３話以降のコンテンツであれば２話前の予告部分を再生することで、視聴するユーザが前話のあらすじを確認することが可能となる。

[0047] 以上の実施例では、携帯端末装置１においてあらすじ部或いは／及び予告部をスキップする処理を行うことを説明した。次に、コンテンツ配信装置（コンテンツ配信サーバ４）においてスキップする処理を行う例について、以下に説明する。

[0048] 図１１は、コンテンツ視聴処理Ｓ４１３ｂの他の実施例である。図１１において、図７と同じ動作部分には同じ番号を付し、説明を省略する。図１１の動作シーケンスでも、図４と同様に、紙面の上から下に向かって時間の経過を示す。また、ユーザ９の操作、携帯端末装置１の動作、及び、コンテンツ配信サーバ４それぞれから出ている縦線上の処理Ｓ７００～Ｓ７０５は、ユーザ９の操作、携帯端末装置１の動作、及び、コンテンツ配信サーバ４それぞれの動作時間と動作内容を示す。なお、縦線上の間隔は、経過する時間の長さとは一致していない。さらに、横方向の矢印は、同時刻に他の機器（ユーザ、携帯端末装置１、またはコンテンツ配信サーバ４）に伝達されているように見えるが、多少の遅延がある。

なお、既に説明したように、携帯端末装置１での処理は、制御部１０１が制御し、コンテンツ配信サーバ４での処理は、制御部４１が制御する。

[0049] 視聴コンテンツリスト処理Ｓ７０４において、携帯端末装置１は、選択し

たコンテンツをもとに視聴するコンテンツのリストを作成し、視聴するコンテンツのリストをコンテンツ配信サーバ4に送信する（S705）。コンテンツ配信サーバ4は、選択したN個のコンテンツを第1話から第N話まで配信する繰り返し処理S720（S715～S717及びS714）を実行する。

[0050] 繰り返し処理S720では、まず携帯端末装置1は、コンテンツ配信サーバ4にM番目のコンテンツの配信要求を行う（M番目コンテンツ配信要求処理S715）。

配信要求を受けたコンテンツ配信サーバ4は、現在時刻情報を取得する（現在時刻情報取得処理S716）。なお、現在時刻情報を取得する方法としては、計時部43から取得してもよく、インターネット時刻サーバから取得してもよい。

次にコンテンツ配信サーバ4は、M番目のコンテンツの配信処理を実行する。携帯端末装置1は、配信されたM番目のコンテンツを表示部114に表示する（M番目コンテンツ配信処理S717）。

コンテンツ配信サーバ4は、M番目のコンテンツの配信処理後、コンテンツ履歴視聴情報更新処理S714において、ユーザの視聴したコンテンツ名、視聴した日時の情報等のコンテンツ視聴履歴情報を更新する（履歴情報更新処理S714）。

以上の処理を視聴コンテンツリストのN個のコンテンツの配信終了するまで繰り返し、コンテンツ配信処理を終了する。

[0051] 図12は、M番目のコンテンツ配信処理S717の動作フローチャートの一例を示す図である。

[0052] 図12において、分岐処理S1201では、コンテンツ配信サーバ4は、コンテンツ情報蓄積領域45aに記憶されたコンテンツ付随情報から視聴対象（配信対象）のコンテンツが複数話からなるコンテンツか否か、かつ複数話から成るコンテンツの場合には第1話目であるか否かを判断する（複数話コンテンツ有無判定処理S1201）。視聴対象のコンテンツが複数話から

なるコンテンツではない場合（No）には、コンテンツ全体を配信する処理を行う（コンテンツ全体配信処理S1202）。視聴対象のコンテンツが複数話からなるコンテンツの場合（Yes）には、分岐処理S1203において前話あらすじ部分或いは次話予告部分をスキップするモードが設定されているか否かを判断する（スキップモード判定処理S1203）。スキップするモードが設定されていない場合及び第1話目である場合（No）には本編部分以外のあらすじ部分及び／或いは予告部分も含めたコンテンツ全体を配信する処理を行う（コンテンツ全体配信処理S1202）。スキップするモードが設定されている場合（Yes）には、ユーザ情報蓄積領域45bに記憶されたコンテンツ視聴履歴情報により視聴対象のコンテンツの前話を配信した履歴があるか否かを判断する（前話配信履歴有無判定処理S1204）。

[0053] 分岐処理S1204の判断から、前話を配信した履歴がある場合（Yes）には、コンテンツ配信履歴の情報と現在時刻情報取得処理S716で取得した現在時刻情報に基づいて前話を配信してから現在の時間までの経過時間が所定の時間Ti時間より短いかなんかを判断する（配信経過時間判定処理S1205）。

経過時間が所定の時間Ti時間より短い場合（Yes）には、本編を配信する処理（本編配信処理S1206）を行う。分岐処理S1204において配信対象（視聴対象）のコンテンツの前話を配信した履歴がない場合（No）、及び分岐処理S1205において経過時間が所定の時間Ti時間より長い場合（No）には、コンテンツ情報蓄積領域45aに記憶されたコンテンツの構成情報によりコンテンツに前話のあらすじ部分があるか否かを判断する（前話あらすじ有無判定処理S1207）。

前話あらすじ部分がない場合（No）には、コンテンツに次話の予告部分があるか否かを判断する（次話予告有無判定処理S1209）。

次話予告部分がない場合（No）には、本編配信処理S1206を行う。予告部分がある場合（Yes）には、配信するコンテンツが第3話以降か否

かを判断する（第3話以降判定処理S 1 2 1 0）。第3話以降ではない場合（N o）には本編を配信する処理（本編配信処理S 1 2 0 6）を行う。第3話以降の場合（Y e s）には、配信するコンテンツの2話前の予告部分を前話のあらすじ部分として配信する処理（2話前予告配信処理S 1 2 1 1）を行った後、本編配信処理S 1 2 0 6を行う。

[0054] 本編配信処理S 1 2 0 6を行った後、現在の配信対象の続話が視聴コンテンツリストの中にあるか否かを判断する（視聴リスト続話有無判定処理S 1 2 1 2）。視聴コンテンツリストに続話がある場合（Y e s）には配信処理を終了する。リストに続話がない場合（N o）には、コンテンツの構成情報によりコンテンツに次話の予告部分があるか否かを判断する（次話予告有無判定処理S 1 2 1 3）。予告部分がない場合（N o）には配信処理を終了する。予告部分がある場合には、予告部分を配信する処理（予告配信処理S 1 2 1 4）を行い、配信処理を終了する。

[0055] 図12の動作において、携帯端末装置1は、コンテンツ配信サーバ4から配信されたコンテンツを、配信の都度受信し、受信されたコンテンツを順次表示部114に表示し、かつスピーカ111から音声出力する。

[0056] 上記図12の処理により、前話を配信していない場合或いは前話を配信（視聴）してからの経過時間が長い場合に、図8Cのように次話の予告部分はあるが、前話のあらすじ部分がないコンテンツにおいても、第3話以降のコンテンツであれば2話前の予告部分を配信することで、視聴するユーザが前話のあらすじを確認することが可能となる。

[0057] 上述した図1～図12の説明では、1話のコンテンツにおける前話あらすじ部分と次話予告部分についてスキップするか否かの実施例を説明した。しかし、配信及び再生する1話のコンテンツ中には、その他に、主題歌（オープニング）部分、副主題歌（エンディング）部分、及びCM（メーカーや商品、他のコンテンツの宣伝、等）部分が含まれている場合がある。

これらの部分についても、ユーザの操作によって、スキップするように設定することが可能である。

[0058] 図 8 F は、複数話からなるコンテンツの構成例を示す例を示す図である。

例えば、1 話のコンテンツ中の本編部分以外のコンテンツ部分を、図 8 F に示すように、本編 C 3 以外の部分について、冒頭部 C 1 0 と巻末部 C 2 0 に区分することができる。冒頭部 C 1 0 は、例えば、前話あらすじ部分 C 1 と主題歌（オープニング）部分 C 2 であり、巻末部 C 2 0 は、例えば、副主題歌（エンディング）部分 C 4 と次話予告部分 C 5 と CM 部分 C 6 である。なお、図 8 F においても、図 8 A ～図 8 D のように、ヘッダ部分 C 0 は省力して図示していない。

そして、本編部分 C 3 以外の部分を冒頭部 C 1 0 と巻末部 C 2 0 に区分したときに、コンテンツ視聴アプリケーションにおいて、本編部分以外のそれぞれのコンテンツ部分をスキップするか否かを選択する選択メニューを設ける。

そして、当該選択メニューをユーザが選択する操作を行うことによって、本編部分以外のコンテンツ部分の所望のコンテンツ部分をスキップするように設定することができる。

[0059] 即ち、図 9 の替りに図 1 3 の処理を使用し、図 1 0 の替りに図 1 4 の処理を使用し、図 1 2 の替りに図 1 5 の処理を使用するものである。図 1 3 ～図 1 5 は、本発明の視聴システムにおけるコンテンツ視聴処理のフローチャートの別の一例を示す図である。

[0060] 図 1 3 において、図 9 と同じ処理部分には同じ番号を付し、説明を省略する。

スキップモード判定処理 S 1 3 0 3 では、ユーザ操作によって冒頭部分 C 1 0 をスキップするモードが設定されている場合には、分岐処理 S 1 3 0 4 に移行し、設定されていない場合には、コンテンツ全体を視聴する（コンテンツ全体再生処理 S 9 0 2 ）。

前話再生履歴有無判定処理 S 1 3 0 4 では、再生対象のコンテンツの前話を再生した履歴があるか否かを判断する。

分岐処理 S 1 3 0 4 の判断から、前話を再生した履歴がある場合（Y e s

）には、コンテンツ再生履歴の情報と現在時刻情報取得処理 S 7 1 1 で取得した現在時刻情報に基づいて前話を再生してから現在の時間までの経過時間が所定の時間 T i 時間より短いかなかを判断する（再生経過時間判定処理 S 9 0 5）。

経過時間が所定の時間 T i 時間より短い場合（Y e s）には、本編を再生する処理（本編再生処理 S 9 0 6）を行う。分岐処理 S 1 3 0 4 において再生対象のコンテンツの前話を再生した履歴がない場合（N o）、及び分岐処理 S 9 0 5 において経過時間が所定の時間 T i 時間より長い場合（N o）には、M 番目コンテンツ付随情報取得処理 S 7 1 2 で取得したコンテンツの構成情報によりコンテンツに冒頭部分があるかなかを判断する（冒頭有無判定処理 S 1 3 0 7）。

冒頭部分がない場合（N o）には、本編部分を再生する処理（本編再生処理 S 9 0 6）を行う。冒頭部分がある場合（Y e s）には、冒頭部分を再生する処理（冒頭再生処理 S 1 3 0 8）を行った後、本編部分を再生する処理（本編再生処理 S 9 0 6）を行う。

[0061] 続話有無判定処理 S 9 0 9 の処理後、視聴コンテンツリストに続話がある場合（Y e s）には、再生処理を終了する。リストに続話がない場合（N o）には、M 番目コンテンツ付随情報取得処理 S 7 1 2 で取得したコンテンツの構成情報によりコンテンツに巻末部分があるかなかを判断する（巻末有無判定処理 S 1 3 1 0）。巻末部分がない場合（N o）には、再生処理を終了する。巻末部分がある場合には、巻末部分を再生する処理（巻末再生処理 S 1 3 1 1）を行い、再生処理を終了する。

[0062] 上記図 1 3 の処理により、図 8 A 或いは図 8 B のコンテンツ C a、C b のように、冒頭部分を有するコンテンツにおいて、ユーザは、前話を視聴してからの経過時間が短い場合には、冒頭部分をスキップして続話の本編を視聴することが可能となる。また、前話を視聴していない場合或いは前話を視聴してからの経過時間が長い場合には、ユーザは冒頭部分を視聴してから本編を視聴することが可能となる。

また、図 8 A 或いは図 8 C のコンテンツ C a、C c のように、巻末部分を有するコンテンツにおいて、次話を続けて再生する場合には、巻末部分をスキップして再生することが可能となる。また、次話を続けて再生しない場合には、巻末部分を再生することが可能となる。

[0063] 図 1 4 は、M 番目のコンテンツ視聴処理 S 7 1 3 の動作フローチャートの別の一例を示す図である。図 1 4 において、図 1 0 または図 1 3 と同じ処理部分には同じ番号を付し、説明を省略する。本実施例では、冒頭部分がなく、巻末部分のみを有するコンテンツにおいても、冒頭部分を視聴可能とするものである。

[0064] 図 1 4 の分岐処理 S 1 3 0 7 において、M 番目コンテンツ付随情報取得処理 S 7 1 2 で取得したコンテンツの構成情報によりコンテンツに冒頭部分があるか否かを判断する。冒頭部分がない場合 (N o) には、コンテンツに巻末があるか否かを判断する (巻末有無判定処理 S 1 3 2 0)。冒頭部分がある場合 (Y e s) には、冒頭部分を再生する処理 (冒頭再生処理 S 1 3 0 8) を行った後、本編部分を再生する処理 (本編再生処理 S 9 0 6) を行う。冒頭部分がない場合 (N o) には、コンテンツに巻末部分があるか否かを判断する (巻末有無判定処理 S 1 3 2 0)。

巻末部分がない場合 (N o) には、本編を再生する処理 (本編再生処理 S 9 0 6) を行う。巻末部分がある場合 (Y e s) には、視聴するコンテンツが第 3 話以降か否かを判断する (第 3 話以降判定処理 S 1 3 2 1)。第 3 話以降ではない場合 (N o) には、本編を再生する処理 (本編再生処理 S 9 0 6) を行う。第 3 話以降の場合 (Y e s) には、再生するコンテンツの 2 話前の巻末部分を冒頭部分として再生する処理 (2 話前巻末再生処理 S 9 2 2) を行った後、本編再生処理 S 9 0 6 を行う。

本編再生処理 S 9 0 6 を行った後の処理は、図 1 3 と同様であるので説明を省略する。

[0065] 上記図 1 4 の処理により、前話を再生していない場合或いは前話を再生してから経過時間が長い場合に、図 8 C のように巻末部分または次話の予告

部分はあるが、冒頭部分がないコンテンツにおいても、第3話以降のコンテンツであれば2話前の巻末部分を再生することで、視聴するユーザが冒頭部分または前話のあらすじを確認することが可能となる。

[0066] 図15は、M番目のコンテンツ配信処理S717の動作フローチャートの別の一例を示す図である。図12の同一の処理は、説明を省略する。

[0067] 図15において、分岐処理S1503では、冒頭部分或いは巻末部分をスキップするモードが設定されているか否かを判断する（スキップモード判定処理S1503）。スキップするモードが設定されていない場合（No）には、本編部分以外の冒頭部分及び／或いは巻末部分も含めたコンテンツ全体を配信する処理を行う（コンテンツ全体配信処理S1202）。スキップするモードが設定されている場合（Yes）には、ユーザ情報蓄積領域45bに記憶されたコンテンツ視聴履歴情報により視聴対象のコンテンツの前話を配信した履歴があるか否かを判断する（前話配信履歴有無判定処理S1504）。

[0068] 本編配信処理S1206を行った後、現在の配信対象の続話が視聴コンテンツリストの中にあるか否かを判断する（視聴リスト続話有無判定処理S1212）。視聴コンテンツリストに続話がある場合（Yes）には配信処理を終了する。リストに続話がない場合（No）には、コンテンツの構成情報によりコンテンツに巻末部分があるか否かを判断する（巻末有無判定処理S1513）。巻末部分がない場合（No）には配信処理を終了する。巻末部分がある場合には、巻末部分を配信する処理（巻末配信処理S1514）を行ってから、配信処理を終了する。

[0069] 図15の動作において、携帯端末装置1は、コンテンツ配信サーバ4から配信されたコンテンツを、配信の都度受信し、受信されたコンテンツを順次表示部114に表示し、かつスピーカ111から音声出力する。

[0070] 上記図15の処理により、前話を配信していない場合或いは前話を配信（視聴）してからの経過時間が長い場合に、図8Cのように次話の巻末部分はあるが、冒頭部分がないコンテンツにおいても、第3話以降のコンテンツで

あれば2話前の巻頭部分を配信することで、視聴するユーザが前話のあらすじ等の前話の冒頭部分を確認することが可能となる。

[0071] 図13乃至図15の実施例では、1話のコンテンツを、本編部分と本編の前の冒頭部分、及び本編の後の巻末部分に区分して、ユーザが説明した。

しかし、冒頭部分C10を「前話あらすじ部分C1」、「主題歌（オープニング）部分C2」等に区分し、巻末部分C20を「副主題歌（エンディング）部分C4」、「次話予告部分C5」、及び「CM部分C6」等に区分して、ユーザ操作によって選択し、選択した対象部分のみをスキップするようにしてもよい。

例えば、ユーザ操作によってすべての巻末部分C20を選択し、かつ冒頭部分C10の前話あらすじ部分C1を選択することによって、巻末部分C20と前話あらすじ部分C1とをスキップするモードを選択することもできる。

このように、冒頭部分C10と巻末部分C20のそれぞれの部分をユーザ操作によって、スキップするモードを選択することによって、コンテンツの再生や配信をユーザが自由に設定することができ、ユーザによるコンテンツ視聴の自由度が増す。

[0072] 図12及び図15の説明では、外部のネットワークに接続した映像配信装置（コンテンツ配信サーバ）からコンテンツを配信する場合について説明した。しかし、これに限らず、録画機能を有するテレビ受信機、或いはHDDレコーダやBD（Blu-ray Disc：登録商標）レコーダ等の録画再生装置がコンテンツ配信するサーバとして動作してもよい。また、コンテンツ配信装置から、家庭内でのローカルネットワークに接続した携帯端末装置を用いてコンテンツを再生して、ユーザが視聴できるようにしてもよい。さらに、携帯無線端末以外、テレビ受信装置、或いはパーソナルコンピュータ等を映像再生装置として録画したコンテンツを再生して視聴する場合にも適用可能である。

[0073] また、コンテンツ配信サーバ等の映像配信装置からコンテンツをダウンロード

ードして再生する映像再生装置においては、映像再生装置がダウンロードしたコンテンツを再生した時間を含む履歴情報をメモリ 102 或いはストレージ 103 に記憶する。そして、この記憶したコンテンツ再生履歴情報から、前話のコンテンツの再生の有無或いは再生してからの経過時間を求め、コンテンツの構成情報に基づいて自動的にコンテンツのあらすじ部分或いは／及び予告部分をスキップして再生するようにしてもよい。

[0074] また、放送波やケーブルテレビジョンでテレビ放送された連続ドラマ等を複数話録画して再生する映像再生装置がある。このような装置においては、録画した番組を再生した時間を含むコンテンツ再生履歴情報を記憶し、この再生履歴情報から前話の再生の有無或いは再生してからの経過時間を求め、番組の構成情報に基づいて自動的に録画した番組のあらすじ部分或いは／及び予告部分をスキップして視聴するようにしてもよい。

[0075] また、コンテンツの構成情報をコンテンツ配信サーバから取得するようにしたが、コンテンツに関する情報を配信している他のサーバから取得してもよい。

また、コンテンツ配信サーバにおいてコンテンツ情報蓄積領域とユーザ領域蓄積領域を同一のストレージに設けるようにしたが、これに限らず複数のストレージ或いはサーバに分散して設けるようにしてもよい。

また、連続配信するあらすじ部分或いは／及び予告部分のスキップ処理を、コンテンツ配信サービスのオプションとし、コンテンツ配信業者がユーザに対して追加課金を行うようにしてもよい。

また、上述の実施例では、コンテンツのあらすじ部分或いは／及び予告部分をスキップして再生するか否かの視聴モードの設定をユーザが行うようにした。しかし、複数話からなるコンテンツを連続して再生する場合には、ユーザが選択したコンテンツに対して、現在時刻情報とコンテンツ視聴履歴情報とコンテンツの構成情報に基づいて自動的にコンテンツのあらすじ部分或いは／及び予告部分をスキップして再生するモードを設定するようにしてもよい。

[0076] 尚、上記した実施例は本発明を分かり易く説明するために詳細に説明したものであり、必ずしも説明した全ての構成を備えるものに限定されるものではない。また、各実施例の構成の一部について、他の構成の追加、削除、または置換をすることが可能である。また、上記の各構成、機能、処理部、処理手段等は、それらの一部または全部を、例えば集積回路で設計する等によりハードウェアで実現しても良い。また、上記の各構成、機能等は、プロセッサがそれぞれの機能を実現するプログラムを解釈し、実行することによりソフトウェアで実現しても良い。各機能を実現するプログラム、テーブル、ファイル等の情報は、メモリ 102 或いはストレージ 103 に置くことができる。

また、制御線や情報線は説明上必要と考えられるものを示しており、製品上必ずしも全ての制御線や情報線を示しているとは限らない。実際には殆ど全ての構成が相互に接続されていると考えても良い。

符号の説明

[0077] 1 : 携帯端末装置、 2 : ルータ、 3 : 外部ネットワーク、 4 : コンテンツ配信サーバ、 5 : 基地局、 6-a : オン／オフボタン、 6-b : 経過時間設定欄、 9 : ユーザ、 40 : バス、 41 : 制御部、 42 : メモリ、 43 : 計時部、 44 : 通信部、 45 : ストレージ、 45b : ユーザ情報蓄積領域、 100 : バス、 101 : 制御部、 102 : メモリ、 102a : ユーザ情報、 103 : ストレージ、 104 : GPS 受信部、 105 : 地磁気センサ、 106 : 加速度センサ、 107 : ジャイロセンサ、 108 : 入出力インターフェース、 109 : マイク、 110 : 音声処理部、 111 : スピーカ、 112 : 外部音声出力部、 113 : 操作入力部、 114 : 表示部、 115 : 画像処理部、 116 : 撮像部、 117 : 基地局通信部、 118 : 無線通信部、 119 : 計時部、 C0 : ヘッド、 C1 : 前話あらすじ部分、 C2 : 主題歌部分、 C3 : 本編部分、 C4 : 副主題歌部分、 C5 : 次話予告部分、 C6 : CM部分、 C10 : 冒頭部、 C20 : 巻末部、 Ca、Cb、Cc、

C d : コンテンツ、 S 4 0 1 ~ S 4 1 3、 S 4 1 3 a、 S 4 1 3 b、 S 4 1 3 c、 S 4 2 0、 S 5 0 1 ~ S 5 0 9、 S 7 0 0 ~ S 7 0 4、 S 7 1 0 ~ S 7 1 4、 S 7 2 0、 S 9 0 1 ~ S 9 1 1、 S 9 2 0 ~ S 9 2 2、 S 1 2 0 1 ~ S 1 2 1 4、 S 1 3 0 4、 S 1 3 0 7、 S 1 3 0 8、 S 1 3 1 0、 S 1 3 1 0 : 処理、 T i : 所定の時間。

請求の範囲

- [請求項1] 予めコンテンツが記憶された映像配信装置から、ユーザによって選択されたコンテンツを受信して再生する映像再生装置において、
- 前記選択されたコンテンツの構成情報を含むコンテンツ付随情報と、
- 前記選択されたコンテンツを再生した時間情報を含むコンテンツ視聴履歴情報と、現在時刻情報を取得する情報取得部と、
- ユーザが視聴するコンテンツの選択を行う入力部と、
- 前記受信したコンテンツを再生する出力部と、
- 前記コンテンツ付随情報、前記コンテンツ視聴履歴情報及び前記現在時間情報、並びに、前記入力部から入力されたコンテンツに基づいて、前記コンテンツの本編以外の部分をスキップする制御部と、を備えることを特徴とする映像再生装置。
- [請求項2] 請求項1記載の映像再生装置において、前記選択されたコンテンツは、複数話のコンテンツで構成されるシリーズ作品であり、
- 前記制御部は、前記選択されたコンテンツが前記シリーズ作品の2話目以降のコンテンツであり、かつ前話のコンテンツの再生からの経過時間が所定時間より短い場合には、前記コンテンツの前記本編以外の部分をスキップして再生することを特徴とする映像再生装置。
- [請求項3] 請求項2記載の映像再生装置において、
- 前記制御部がスキップして再生する部分は、前記本編の冒頭部分または巻末部分の少なくとも1つであることを特徴とする映像再生装置。
- [請求項4] 請求項2または請求項3記載の映像再生装置において、
- 前記選択したコンテンツに続話が含まれる場合には、前記巻末部分をスキップすることを特徴とする映像再生装置。
- [請求項5] 請求項2乃至請求項4のいずれかに記載の映像再生装置において、
- 前記本編以外の部分は、少なくとも、前話あらすじ部分及び次話予告部分であることを特徴とする映像再生装置。

- [請求項6] コンテンツを受信して再生する映像再生装置から、ユーザによって要求されたコンテンツを配信する映像配信装置において、
- 前記映像再生装置に配信するためのコンテンツ情報、前記選択されたコンテンツの構成情報を含むコンテンツ付随情報、及び前記選択されたコンテンツを再生した時間情報を含むコンテンツ視聴履歴情報を記憶するストレージと、
- 現在時刻情報を取得する計時部と、
- 前記要求されコンテンツを配信する配信出力部と、
- 前記コンテンツ付随情報、前記コンテンツ視聴履歴情報及び前記現在時間情報、並びに、前記要求されたコンテンツに基づいて、前記コンテンツの本編以外の部分をスキップして配信する配信制御部と、を備えることを特徴とする映像配信装置。
- [請求項7] 請求項6記載の映像配信装置において、
- 前記要求されたコンテンツは、複数話のコンテンツで構成されるシリーズ作品であり、
- 前記配信制御部は、前記要求されたコンテンツが前記シリーズ作品の2話目以降のコンテンツであり、かつ前話のコンテンツの再生からの経過時間が所定時間より短い場合には、前記コンテンツの前記本編以外の部分をスキップして配信することを特徴とする映像配信装置。
- [請求項8] 請求項7記載の映像配信装置において、
- 前記配信制御部がスキップして配信する部分は、前記本編の冒頭部分または巻末部分の少なくとも1つであることを特徴とする映像配信装置。
- [請求項9] 請求項7または請求項8記載の映像配信装置において、
- 前記要求されたコンテンツに続話が含まれる場合には、前記巻末部分をスキップして配信することを特徴とする映像配信装置。
- [請求項10] 請求項7乃至請求項9のいずれかに記載の映像配信装置において、
- 前記本編以外の部分は、少なくとも、前話あらすじ部分及び次話予

告部分であることを特徴とする映像配信装置。

[請求項11]

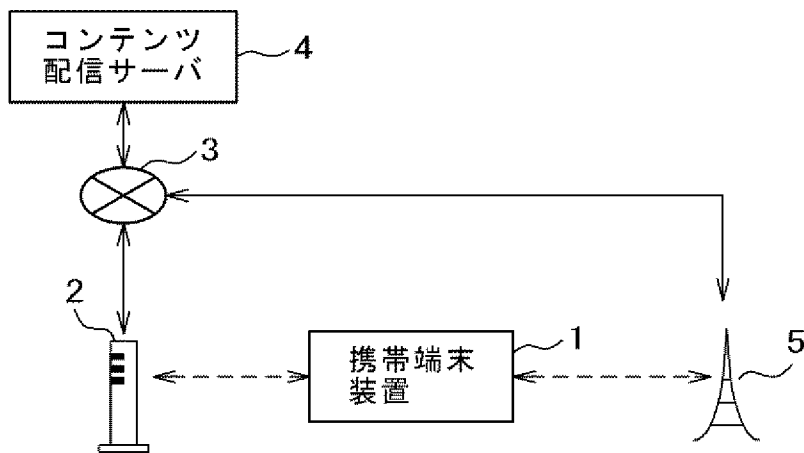
複数話のコンテンツで構成されるシリーズ作品を1話ごとに配信する映像配信方法であって、

映像再生装置にコンテンツの配信を要求された現在時刻情報を取得し、

前記要求されたコンテンツを配信するためのコンテンツ情報、前記コンテンツの構成情報を含むコンテンツ付随情報、及び前記コンテンツを再生した時間情報を含むコンテンツ視聴履歴情報と、前記現在時刻情報に基づいて、前記要求されたコンテンツが前記シリーズ作品の2話目以降のコンテンツであり、かつ前話のコンテンツの再生からの経過時間が所定時間より短い場合には、前記コンテンツの前記本編以外の部分をスキップして配信することを特徴とする映像配信方法。

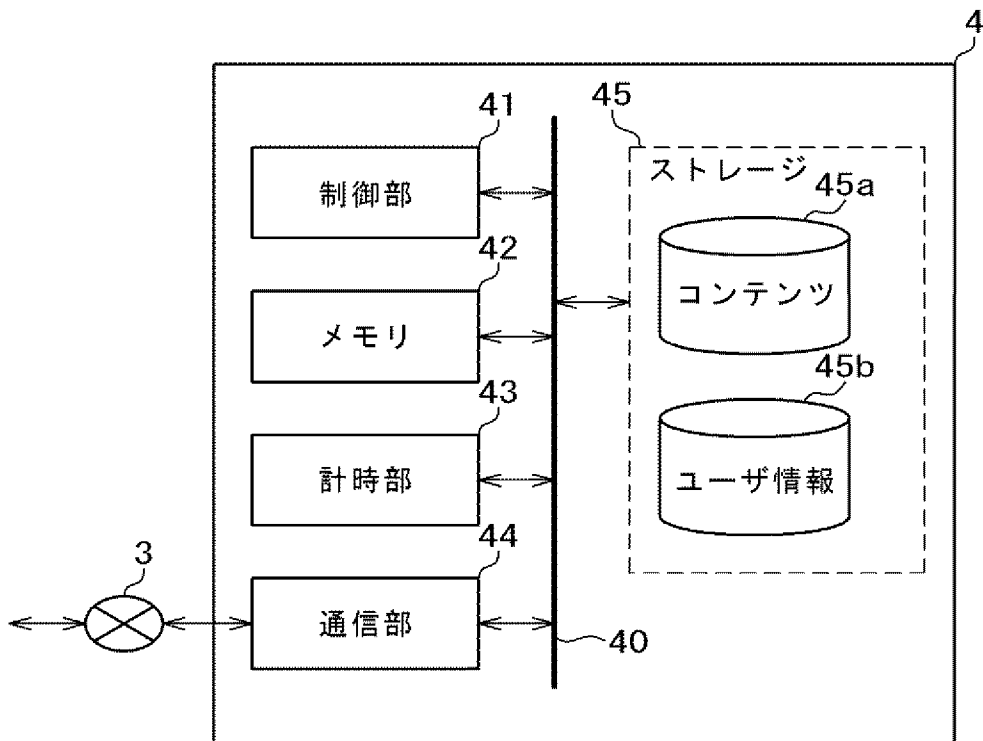
[図1]

図 1



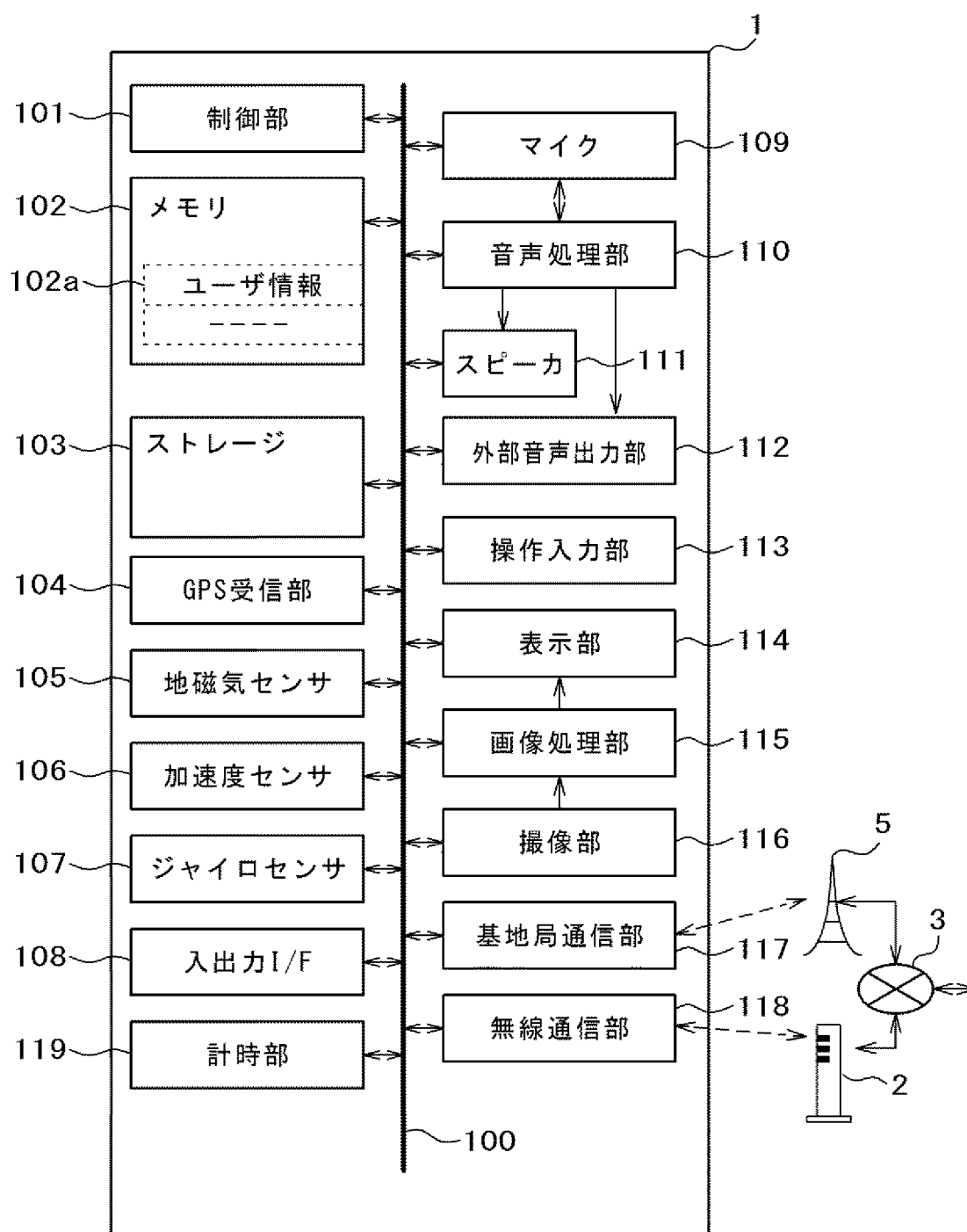
[図2]

図 2



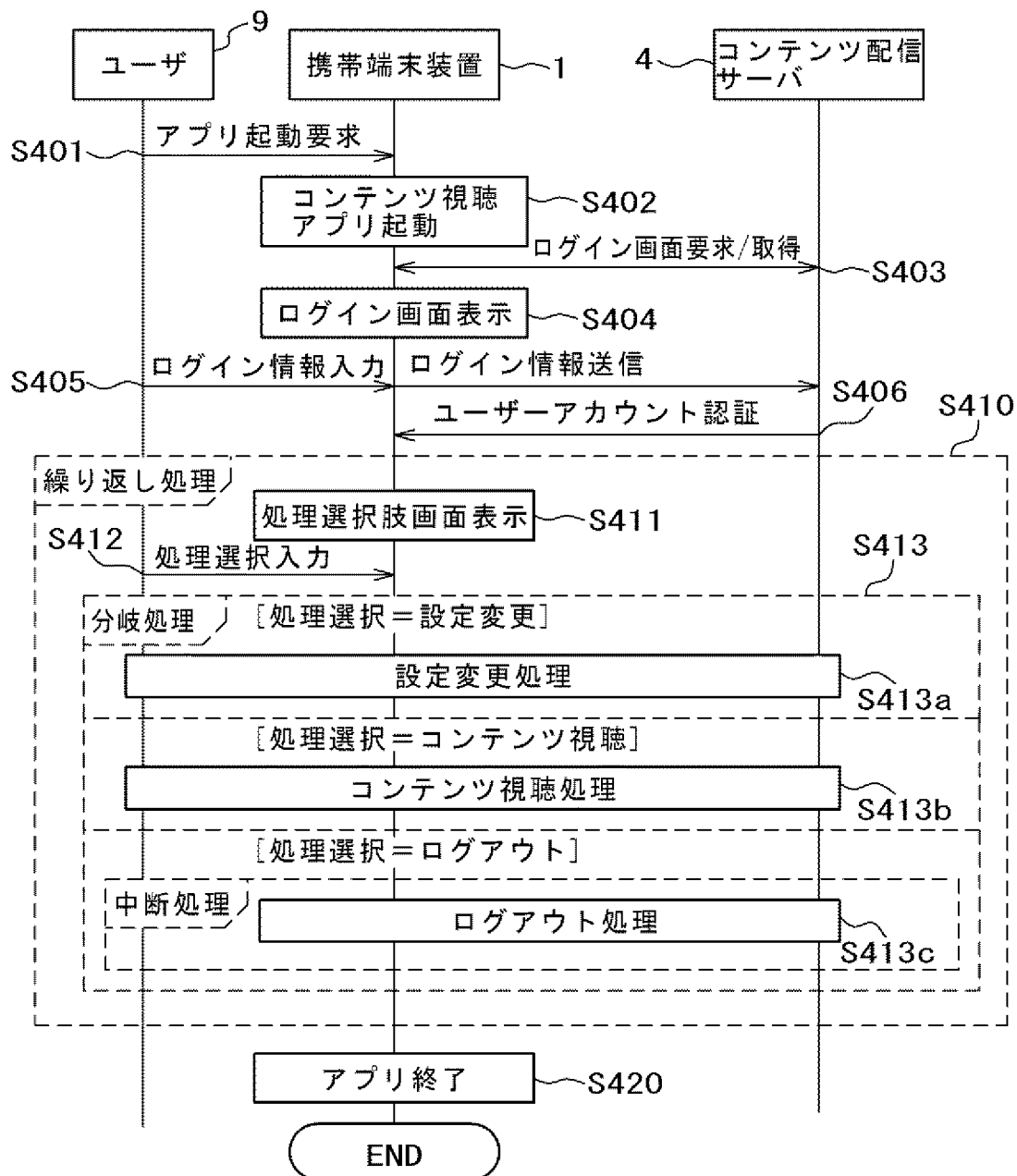
[図3]

図 3



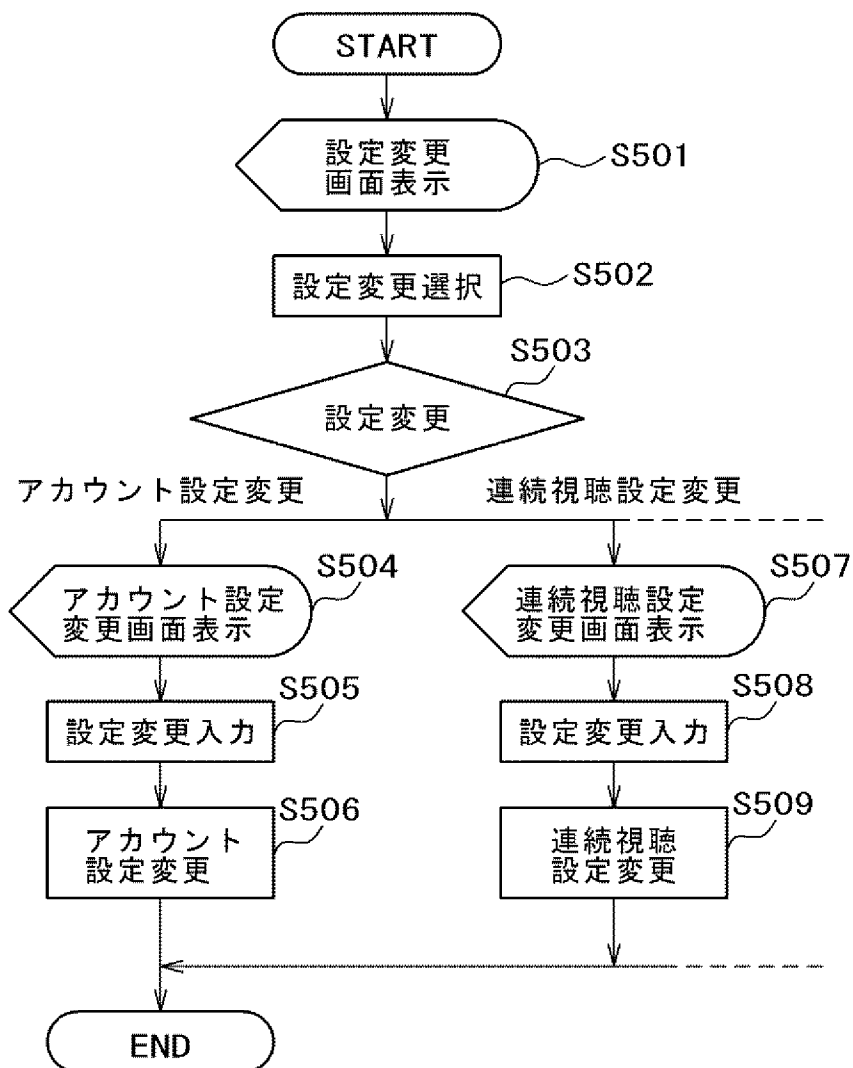
[図4]

図 4



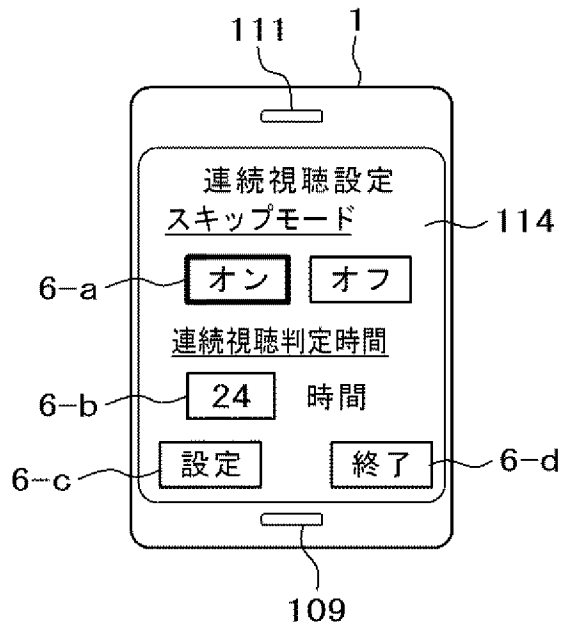
[図5]

図 5



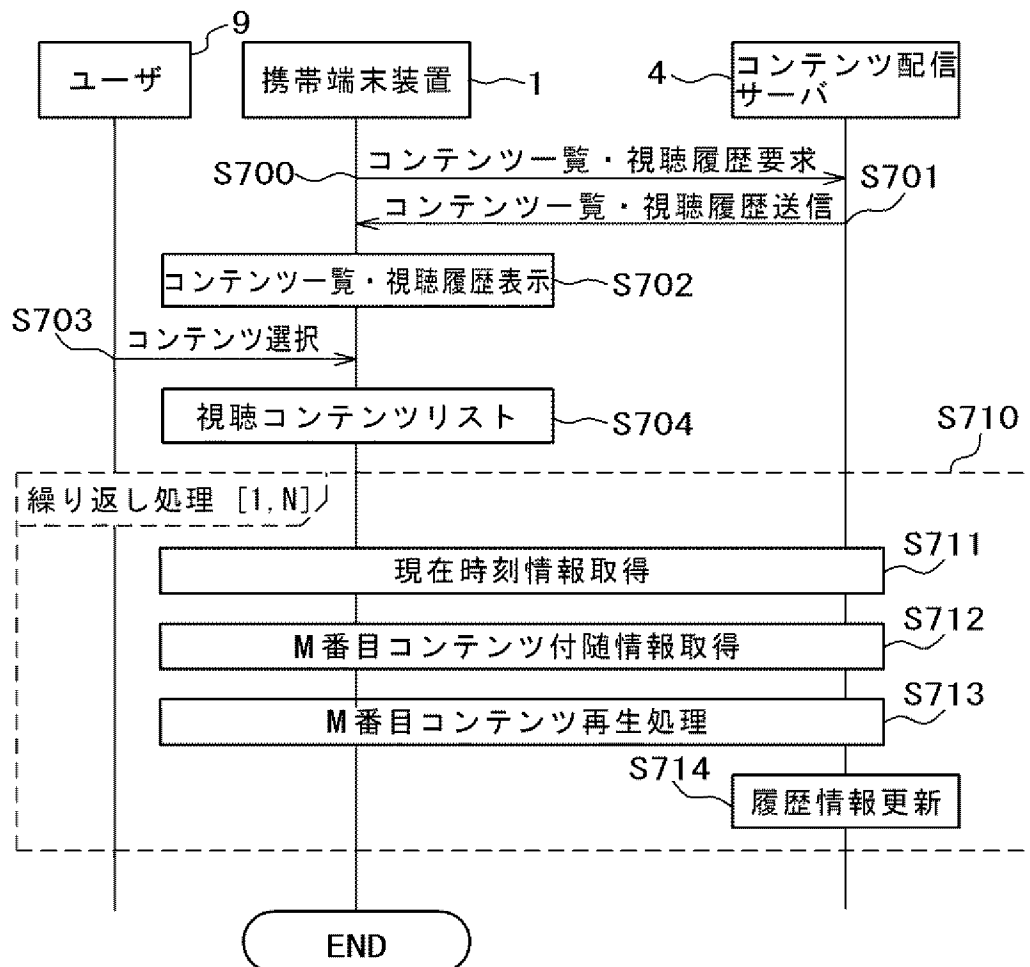
[図6]

図 6



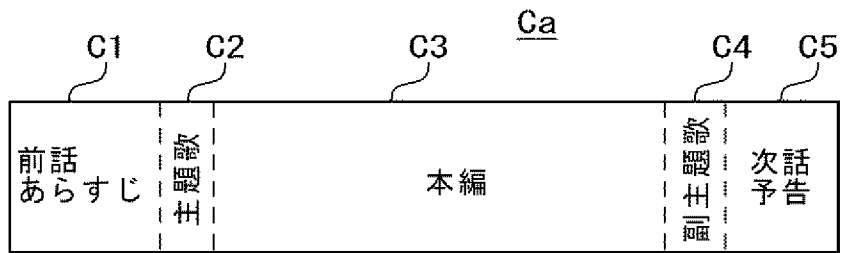
[図7]

図 7



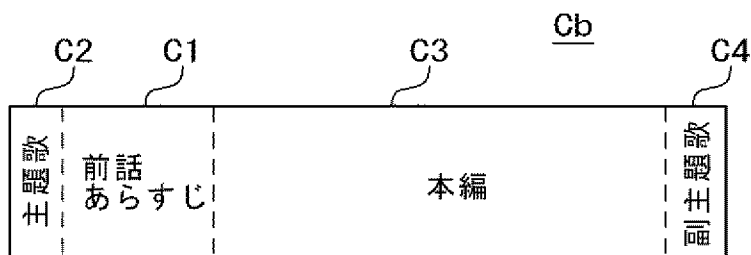
[図8A]

図 8 A



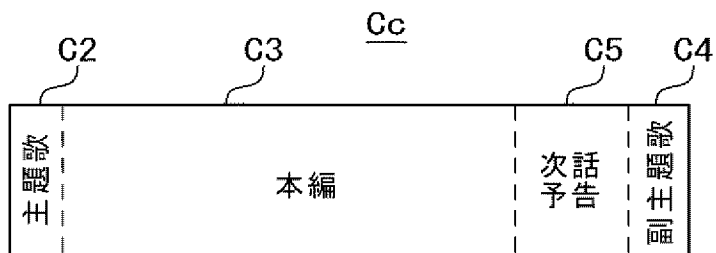
[図8B]

図 8 B



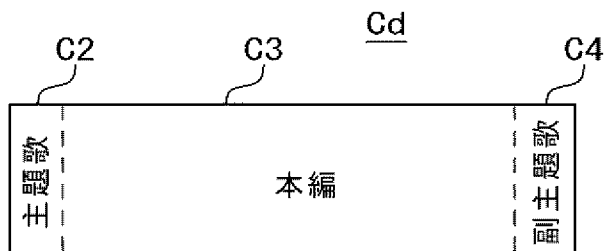
[図8C]

図 8 C



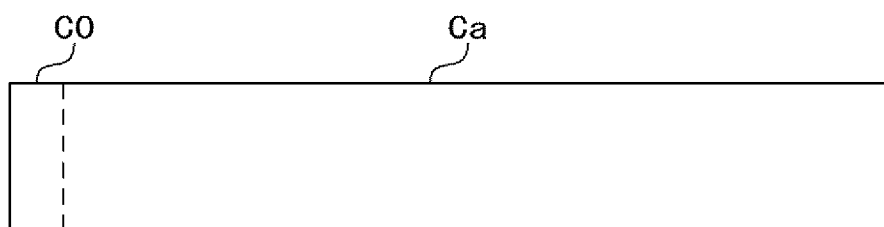
[図8D]

図 8 D



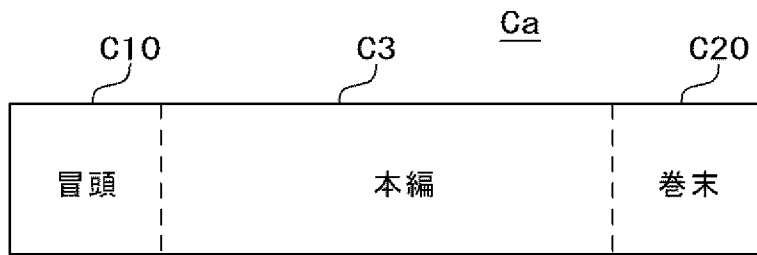
[図8E]

図 8 E



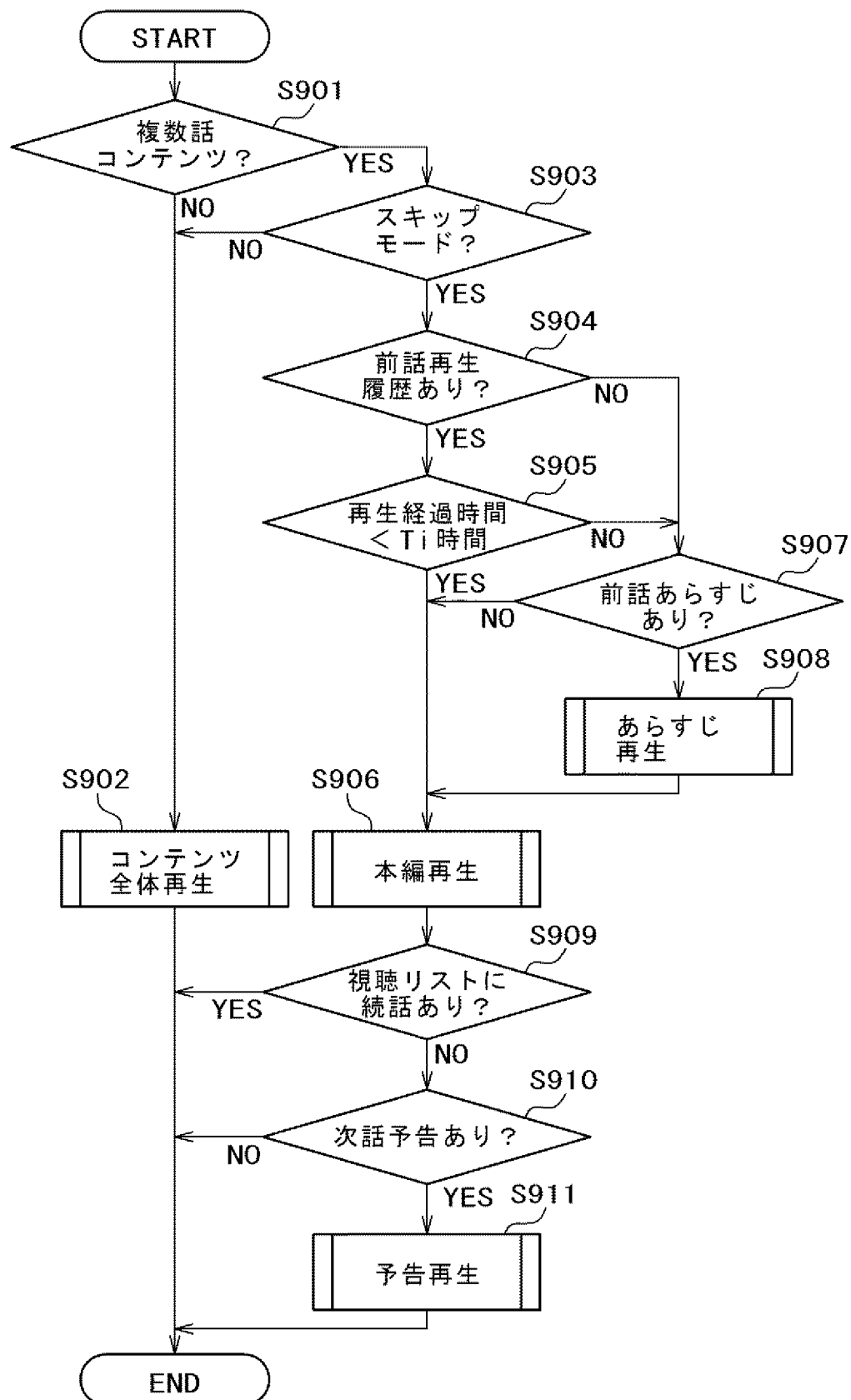
[図8F]

図 8 F



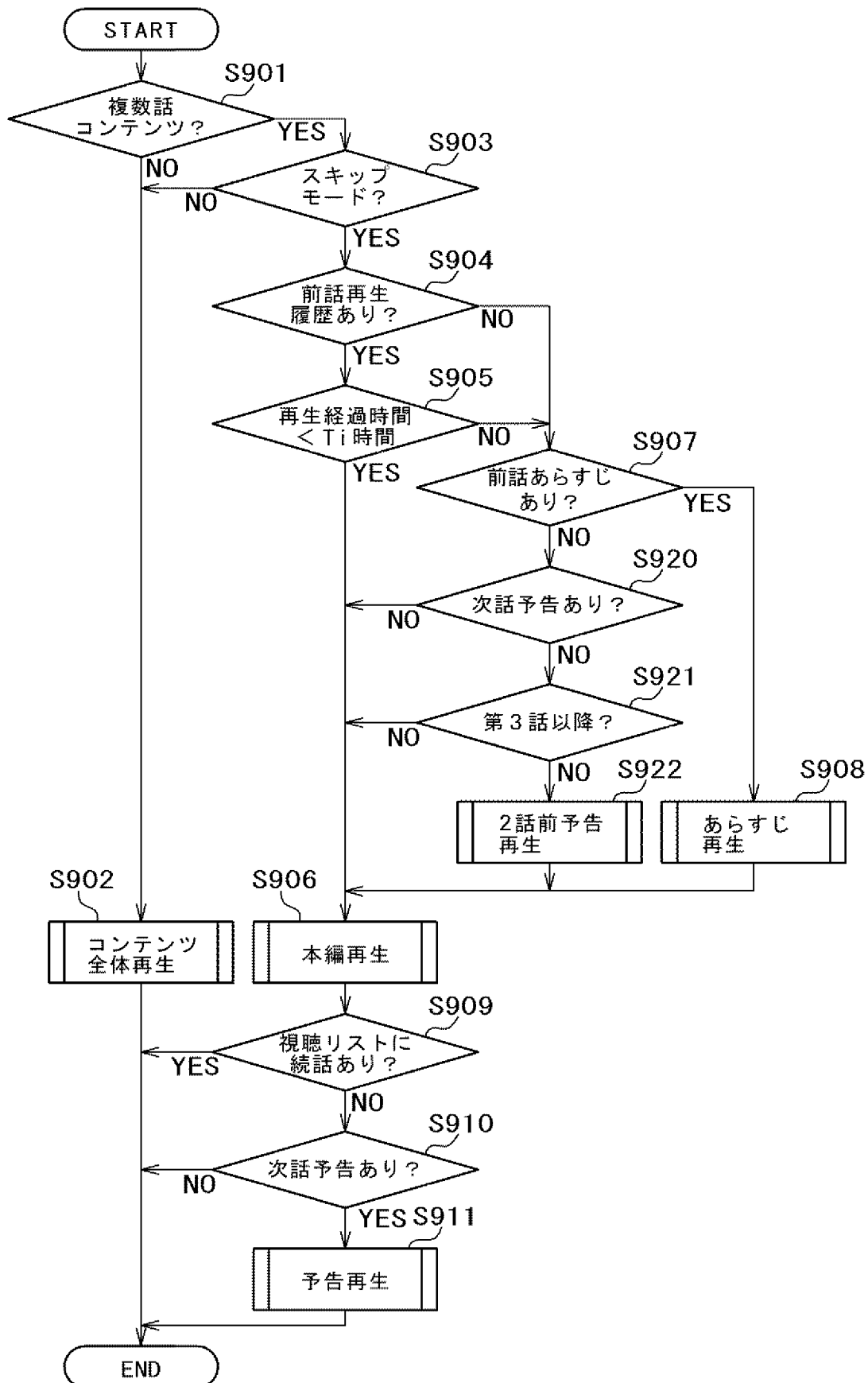
[図9]

図 9



[図10]

図 10



[図11]

図 1 1

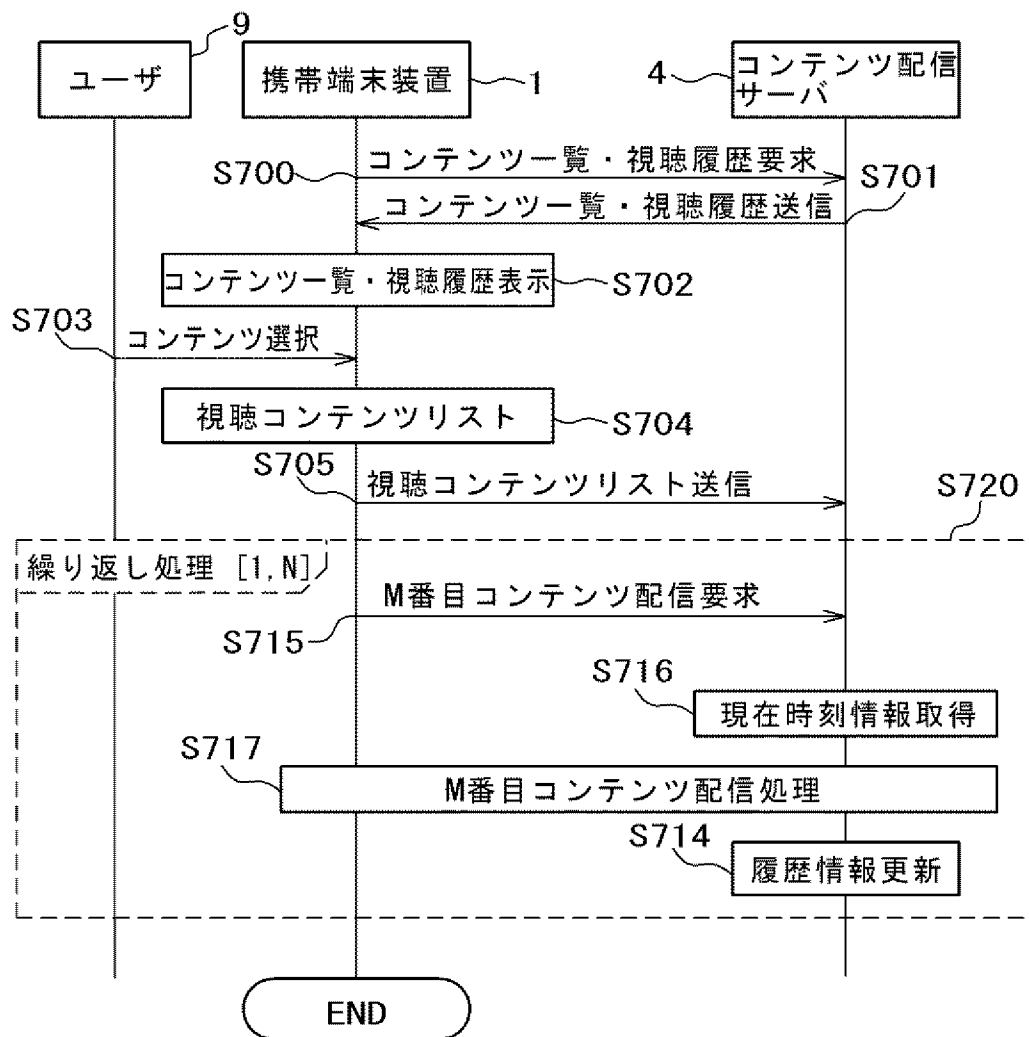
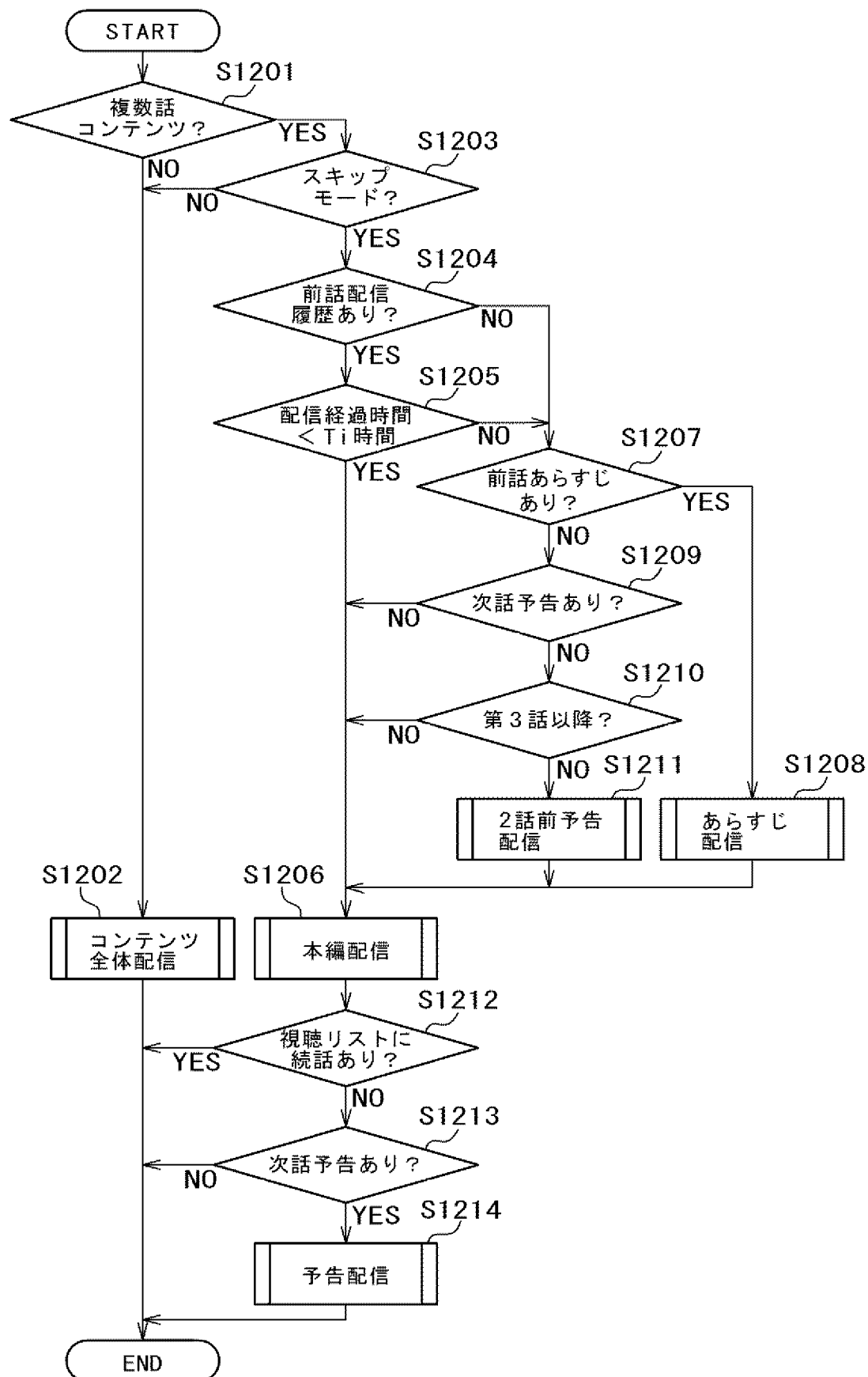
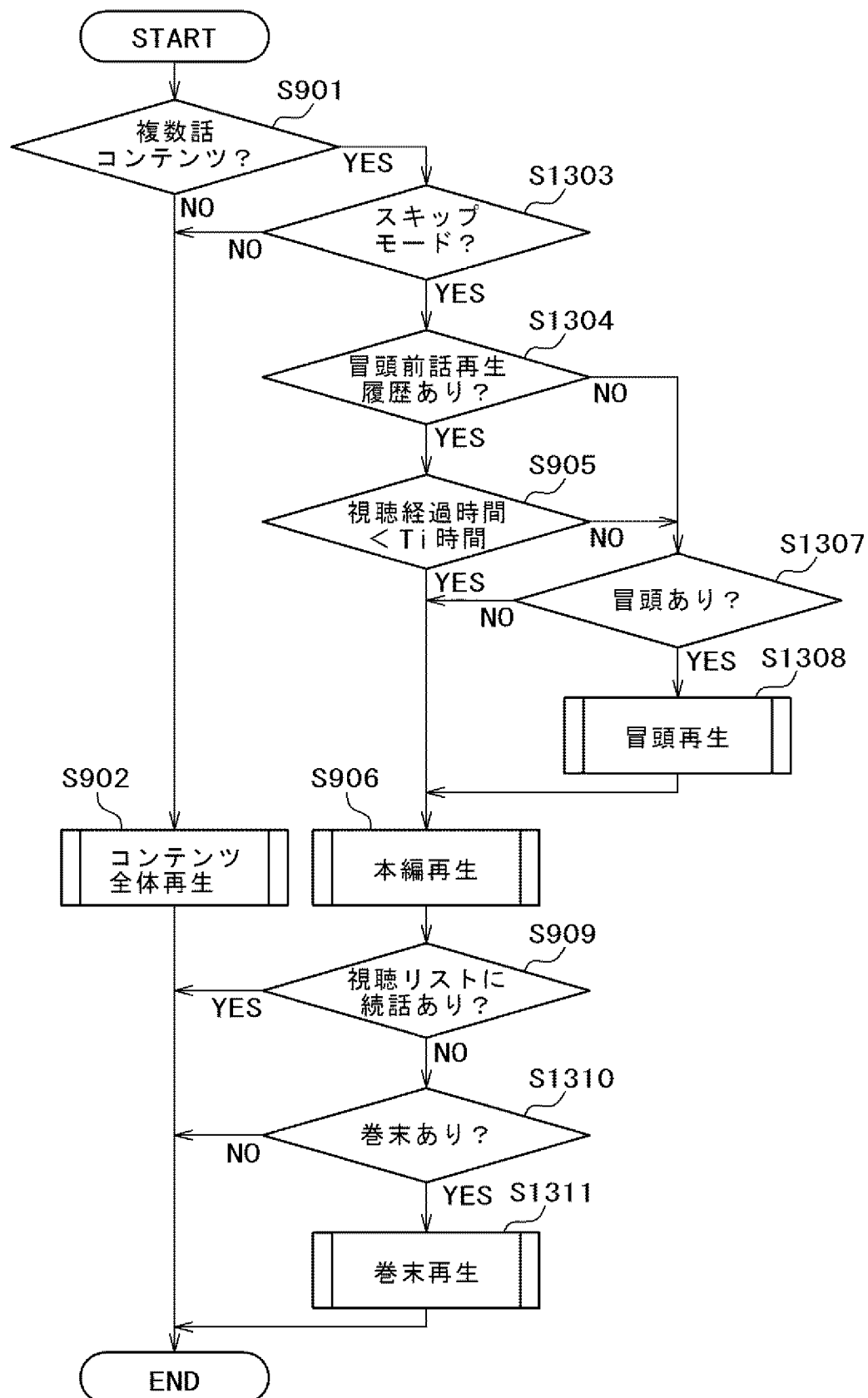


图 1 2



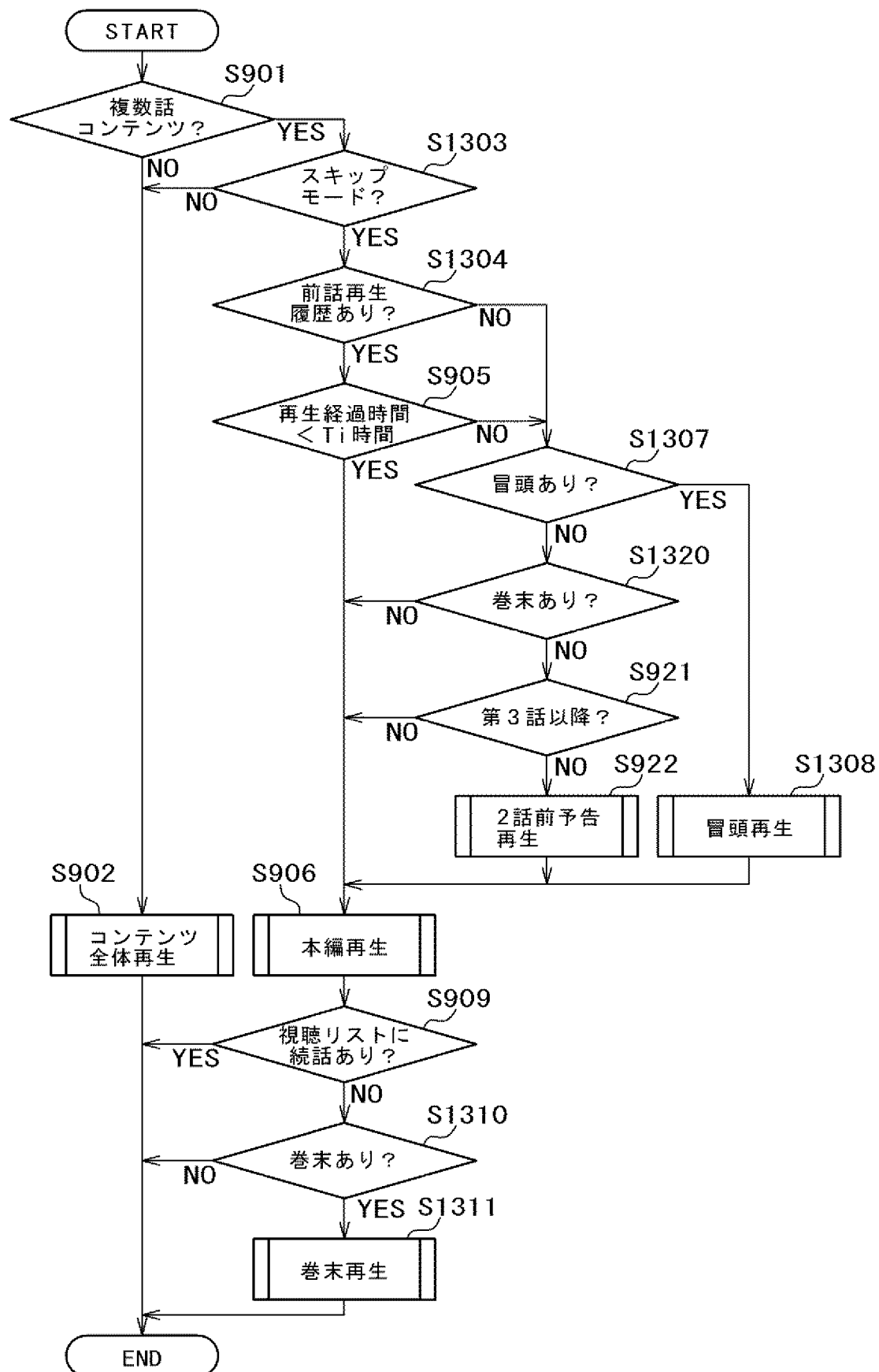
[図13]

図 1 3



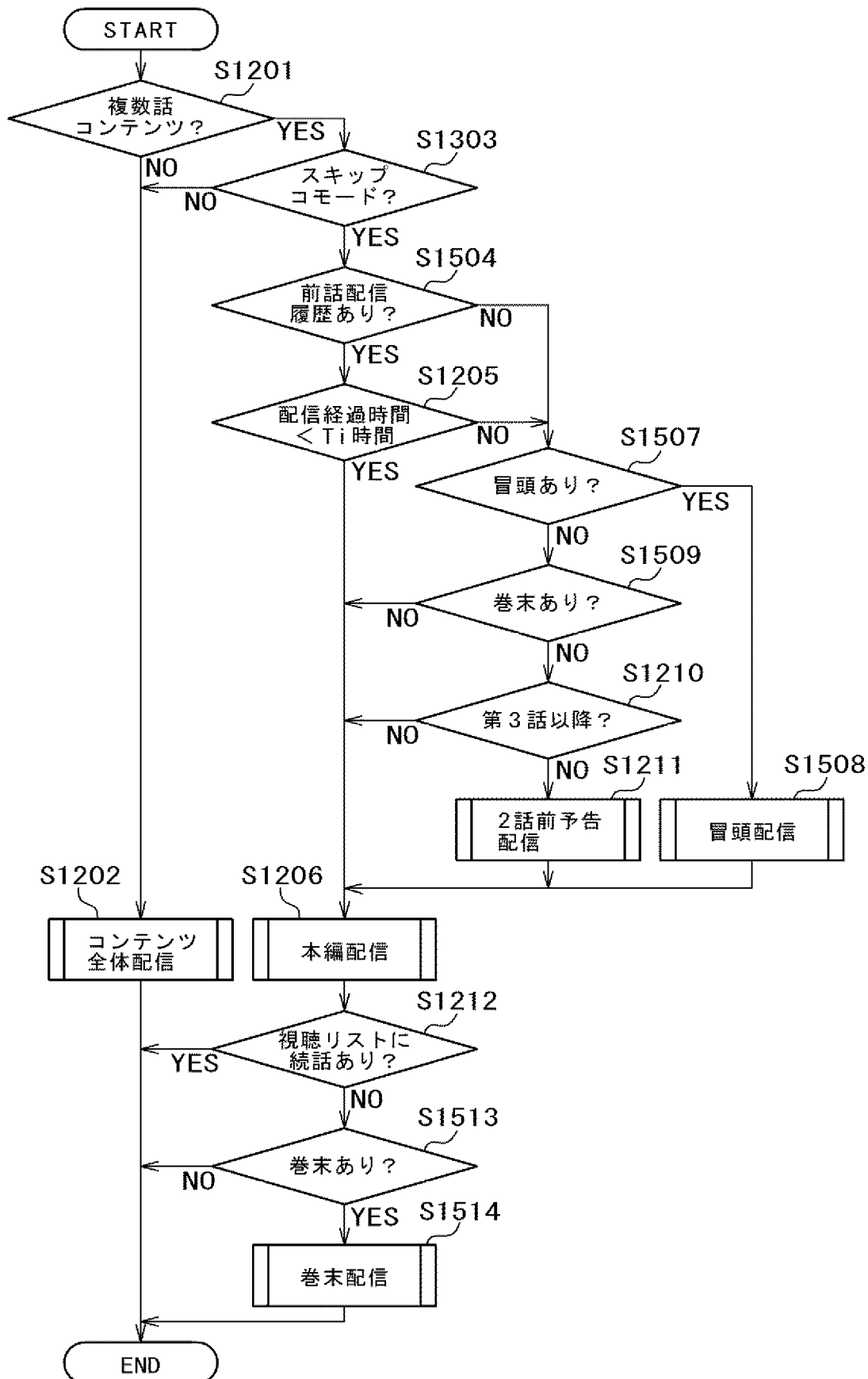
[図14]

図 1 4



[図15]

図 15



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/081133

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

H04N21/458 (2011.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

H04N21/458

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2014
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2014	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2014

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	WO 2008/142761 A1 (Pioneer Corp.), 27 November 2008 (27.11.2008), paragraphs [0036], [0093], [0106] to [0123] (Family: none)	1-11
Y	JP 2008-147939 A (Toshiba Corp.), 26 June 2008 (26.06.2008), paragraph [0034] & US 2008/0212939 A1	1-11
Y	JP 2006-324971 A (Alpine Electronics, Inc.), 30 November 2006 (30.11.2006), paragraph [0004] (Family: none)	2-5, 7-10

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
17 February, 2014 (17.02.14)

Date of mailing of the international search report
25 February, 2014 (25.02.14)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/081133

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2006-352353 A (Funai Electric Co., Ltd.), 28 December 2006 (28.12.2006), paragraph [0002]; fig. 4 & US 2006/0285826 A1	5, 10

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. H04N21/458 (2011.01) i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. H04N21/458

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 4 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 4 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 4 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	WO 2008/142761 A1（パイオニア株式会社）2008. 11. 27, 段落[0036], [0093], [0106]-[0123]（ファミリーなし）	1-11
Y	JP 2008-147939 A（株式会社東芝）2008. 06. 26, 段落[0034] & US 2008/0212939 A1	1-11
Y	JP 2006-324971 A（アルパイン株式会社）2006. 11. 30, 段落[0004]（ファミリーなし）	2-5, 7-10

☒ C 欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

1 7 . 0 2 . 2 0 1 4

国際調査報告の発送日

2 5 . 0 2 . 2 0 1 4

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

畑中 高行

5 C

5 0 9 4

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 5 4 1

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2006-352353 A (船井電機株式会社) 2006. 12. 28, 段落[0002], 図 4 & US 2006/0285826 A1	5, 10